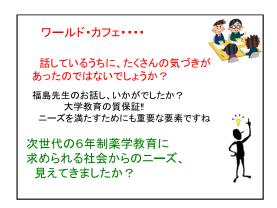
第二部「6年制課程の卒業時のアウトカムを考える」

セッション 1「6 年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」 セッション 2「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」 セッション 3「ディプロマポリシーを作ろう」

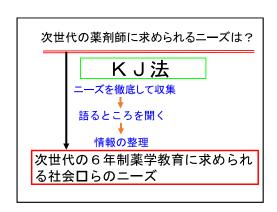


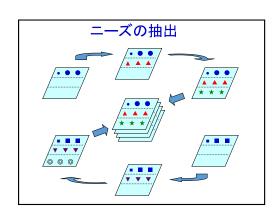
セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

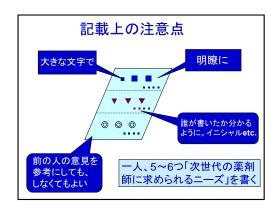


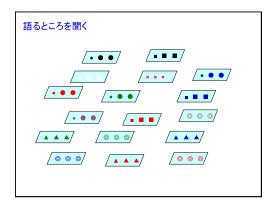


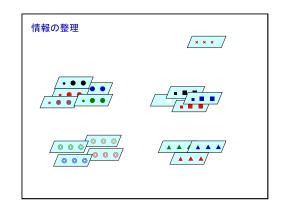
では、これから・・・・・ 薬学部6年制課程の卒業時のアウトカムを 考える、すなわち次世代の6年制薬学教育に 求められる社会からのニーズを考えるうえで 次世代の薬剤師に求められるニーズを、みん なで整理、共有してみましょう。 (参考)薬学教育(6年制)第口者評価 評価基準 (平成 30年1月) 観点1-1-1「教育研究上の目的が、医療を 取り巻く環境、薬剤師に対する社会からのニーズを反 映したものとなっていること」 ではどうやって? カードを使ってみましょう

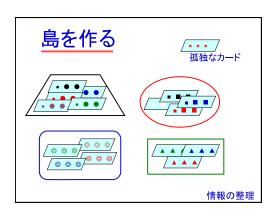


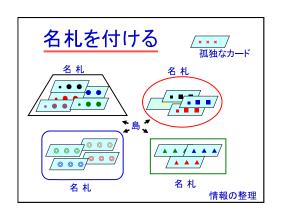












これからの作業 「6年制課程卒業時のアウトカムを考える」

セッション1 次世代の薬剤師に求められる 社会からのニーズは?

島を作り二一ズを共有する 司会、発表、記録、報告書担当者を決めてください



- ·小グループ討議:60分、 ・発表:明日のセッション2「次世代の薬剤師を養成する
- 理想の6年制薬学教育を考えよう」のSDGの結果と合わせ τ
- ・SGD終了後、チェックインして夕食を召し上がってください。

-19:15 教育講演

セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション2

次世代の薬剤師に求められるニーズを 満たすための資質・能力は?

- 1) KJのニーズを参考にし、そのニーズを満たすための 資
 - 質・能力を箇条書きにする
- 2) ニーズとそれを満たすための資質・能力から、「教育研究上の目的」を文章化する。
- P会場でPCで発表(プロダクトはパワーポイントに!)
 発表 5分×3グループ 発表順 A⇒B⇒C
 総合討論 10分

KJの島の名札	資質•能力
○○と△との連携	○○の特徴を生かした連携、△との●◇能力
教育研究上の目的	を文章化

集合時間

- ▶ 各チームのP会場に9:40集合
- ▶ 発表 5分 総合討論10分
- ➤順序 A ⇒ B ⇒ C

第二部「6年制課程の卒業時の アウトカムを考える」

セッション3

「ディプロマ・ポリシー」 を作ろう

日本薬学会第4回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ

第1部 薬学教育に求められる質保証

教育講演1 "菜学教育の改善・充実に向けての最近 の話題、大学教育の質保証"

第2部 6年制課程の卒業時のアウトカムを考える

セッション1:次世代の薬剤師に求められる社会から

のニーズは?

教育講演2 "薬剤師をめぐる政策動向とこれからの薬 剤師のあり方"

セッション2:次世代の薬剤師に求められるニーズを 満たすための資質・能力は?



教育研究上の目的

これからの作業は、

ニーズを満たすための資質・能力 から考えた

次世代の薬剤師を養成する 6年制課程の教育研究上の目的 を踏まえて

ディプロマ・ポリシー (DP) を作成する

ことです。

ディプロマ・ポリシーとは

基本的な考え方一

各大学、学部・学科等の教育理念に基 づき、どのような力を身に付けた者に 卒業を認定し、学位を授与するのかを 定める基本的な方針であり、学生の学 修成果の目標ともなるもの。

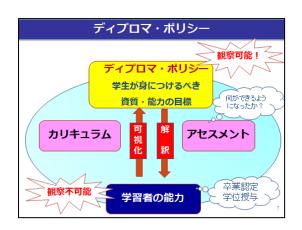
> 「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」 平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会

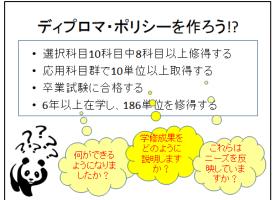
ディプロマ・ポリシーとは

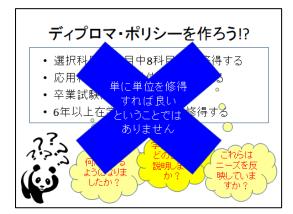
- ●教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化する。
- 「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという方針をできる限り具体的に示す。
- ●学生の進路先等社会における<mark>顕在・潜在ニー</mark> ズも十分に踏まえた上で策定する。

「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」 平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会









第2期(2020年度~)分野別評価では

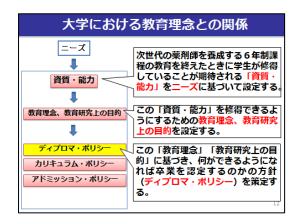
【基準 1-2】

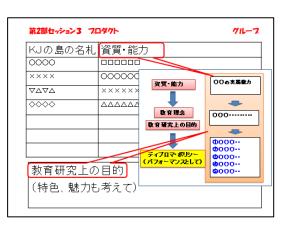
教育研究上の目的に基づき、三つの方針が一 貫性・整合性のあるものとして策定され、公表されていること。

【観点 1-2-1】卒業の認定に関する方針では、卒業までに学生が身につけるべき資質・能力が具体的に設定されていること。

注釈:「卒業までに学生が身につけるべき資質・能力」は、 知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を 持って多様な人々と協働する態度等を指す。

「薬学教育(6年制)第三者評価 評価基準」(平成30年1月)





これからの作業

- 1.4役(司会・発表・記録・報告書担当) を決める。
- 2. 昨日のセッション2で作った次世代の薬 剤師を養成する6年制課程の 「教育研究上の目的」から 「ディプロマ・ポリシー」を作成する。
- 3.「ディプロマ・ポリシー」は 「パフォーマンス」を意識して作成する。

プロダクトを作成するにあたって

- ディプロマ・ポリシーは、1つとは限りません。
- 教育研究上の目的に対し、何ができるようになれば良いか、求める学修成果を考え、 大事なものから箇条書きに、複数個(5個程度)作成してください。
- 資質・能力を有する学生が、様々な場面で 示す行為・行動がパフォーマンスです。

15

プロダクトのイメージ	
第2部セッション 3	○○班
【教育研究上の目的】: 〇〇〇〇〇〇〇〇	
【ディプロマ・ボリシー】パフォーマンスとして記載	<u> </u>
1. △△△△ · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
2. 0000	
3. ♦♦♦♦ • • • • • • • • • • • • • • • • •	
4.0000	わかりやすいよう
5. ⊚ ⊚ ⊚ ⊙ · · · · · · · · · · · · · · · ·	に文章で!
	(5~6個)

このセッションの作業時間は、 75分 集合時間 12:15 (P会場へ) 発表 4分 討論 4分 発表順: B→C→A

IA班

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

第二部セッション1では、「次世代の6年制薬学教育に求められる社会からのニーズは?」 というテーマに沿って、KJ法にて求められるニーズを収集した。

文珠カードに各班員が考えるニーズを書き出し、集まったニーズを関連する内容毎にグループ化(島の作成)を行った(図1)。



(図1: KJ 法によるニーズの抽出)

ニーズとして大きく分けると、「病院における薬剤師のニーズ」、「地域における薬剤師のニーズ」に関することであった。その中でも、求められるニーズとして 1 番多く挙がったのは、「医師に対し、より高度な知識を活用できる薬剤師になって欲しい」ということであった。それに加え、「チーム医療において責任を持って欲しい」、「より地域に貢献できる薬剤師になって欲しい」、「より患者を理解し寄り添える薬剤師であって欲しい」というような現在でも薬剤師として求められている内容よりも「より」専門家としての「薬剤師」になって欲しいという意見が多かった。また、今後の医療として、「超高齢化社会に対応できる薬剤師」、「個別化医療に貢献できる」や「医療費の削減に貢献できる」、「研究能力・科

学的思考力をもって欲しい」といったニーズも寄せられた。

セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション 2 では、セッション 1 でまとめた「島に名札」を付けた 12 個のうち 7 個について、「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」というテーマに沿って、セッション 1 で挙げられたニーズを基に、より具体的に資質・能力を挙げ、教育研究上の目的の文章化を行った(図 2)。

ニーズとして最も多く意見の寄せられたものから考えた。まず「医師に対し、より高度 な知識を活用できる薬剤師になって欲しい」ことに必要な資質・能力を考えるうえで「よ り高度な知識」とは何かについて意見を交わした。その討論の中で、「より治療に則した」 ということに関連するのではないかと考え、現行は「専門薬剤師」がいるが、「将来は、ど の薬剤師でも医師に提案できるようになる」ということを目指し、『自己研鑽を怠らない』 ことと「どの薬剤師も薬学的な知識に基づいて薬物療法を医師に治療提案できる」ことか ら『誰もが患者さん個人に適した薬物療法を医師に提案できる』ことが求められる資質・ 能力とした。次に「より地域に貢献できる薬剤師になって欲しい」ということに対しては、 「より地域」として、「学校」や「市民」も含め、『薬学的知識を市民に提供することで地 域の健康の増進に貢献する』こととした。「より患者を理解し寄り添える薬剤師であって欲 しい」ことに対しては、「患者の意思を尊重し、適正な薬物療法を提案できる」ことを基本 に、1 つ目の「患者さん個人に適した薬物療法を医師に提案できる」ことから、「患者の気 持ちをくみ取り」、「AI にできない、患者からの情報収集をしたうえで」、『患者さんの気持 ちを汲み取り、患者情報を収集した上で、意思を尊重した適正な薬物療法を提案できる』 とした。「研究能力・科学的思考が欲しい」ことに関しては、「科学的能力」「行政を含む、 周りに発信する能力」を主として、『現場の状況をエビデンスを基に行政に提言できる』、『よ り高い論理的思考能力の薬剤師』『医薬品開発に関われる研究能力』、『研究成果を活用でき る能力』、『情報を収集し発信する能力』が必要だと考えた。「時代の変化に対応できる薬剤 師になって欲しい」ことに対しては、『超高齢化社会に対応できる』、『高齢者とのコミュニ ケーション能力』、『国際的に活躍できる薬剤師』、『時代の変化を認識する能力』、『最新知 識の取得等自己研鑽を怠らない』、『自分で PDCA サイクルを回せる』といった資質・能力が 必要だと考えた。

このような資質・能力を修得する上で、【高度な**薬学的知識**を活用するスペシャリストと して責任・覚悟を持ち、他職種との連携をとりながら、多様化した社会において個々に適 した健康福祉に貢献し続けられる薬剤師を養成する】ことを「教育研究上の目的」とした。

KJの島の名札	資質・能力
医師に対しより高度な知識を	・自己研鑽を怠らない
活用できる薬剤師になって欲	・誰もが患者さん個人に適した薬物治療を医師に提案で
LV	きる。
より知識に貢献できる薬剤師	・薬学的知識を市民に提供することで地域の健康の増進
になって欲しい	に貢献する
より患者を理解し寄り添える	・患者さんの気持ちを汲み取り、患者情報の収集をした
薬剤師であって欲しい	上で、意思を尊重した適正な薬物療法を提案できる
研究能力・科学的思考が欲しい	・現場の状況をエビデンスを基に行政に提言できる
	・より高い倫理的思考力の薬剤師
	・医薬品開発に関われる研究能力
	・研究成果を活用できる能力
	・情報を収集し発信する能力
時代の変化に対応できる薬剤	・超高齢化社会に対応できる
師になって欲しい	・高齢者とのコミュニケーション能力
	・国際的に活躍できる薬剤師
	・時代の変化を認識する能力
	・最新知識の取得等自己研鑽を怠らない
	・自分で PDCA サイクルを回せる
次世代の薬剤師を育てる薬剤	・将来を見据えた考えをすることができる
師になって欲しい	・現場の状況をまとめ、伝える能力
志の高い薬剤師であって欲し	・自発的実行力
V	・薬を取り巻く状況・問題などを社会に発信する能力
より薬薬連携能力の高い薬剤	
師になって欲しい	
医療費削減に貢献できる薬剤	
師になって欲しい	
個別化医療に貢献できる薬剤	
師になって欲しい	
チーム医療において責任を持	
って欲しい	
I	

【教育研究上の目的】

高度な薬学的知識を活用するスペシャリストとして責任・覚悟を持ち、他職種との連携をとりながら、多様化した社会において個々に適した健康福祉に貢献し続けられる薬剤師を養成する

(図2:次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力と「教育研究上の目的」)

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

「教育研究上の目的」をもとに、ディプロマポリシーを作成した。 [意見]

- ・「<u>薬学的知識を活用するスペシャリストとして</u>」の部分は、「薬物治療を主導する」はど うか?現在でも現役の薬剤師は業務として行っているが、次世代の薬剤師は、卒業時に その能力を持っているのが理想である。
- ・「地域への貢献」はこれからの薬剤師には、多様化する社会において、絶対に必要である。
- ・「<u>他職種との連携をとりながら」</u>の部分は、「患者に寄り添ったとの表現はどうか?」「患者だけではなく、コメディカルや同僚も含まれるのではないか?」
- ・「<u>他職種との連携をとりながら、多様化した社会において個々に適した</u>」は、「多様な価値観を汲み取る」と表現してはどうか?
- ・「<u>個々に適した健康福祉に貢献し続けられる</u>」は、「医療を取り巻く状況に常に関心を持ち」ではどうか?
- ・「健康福祉に貢献」は、問題点を発信することも貢献である。
- ・「教育研究上の目的」を達成するには論理的思考力が必要である。
- ・「知識だけではなく、使う能力も必要であるため、発揮するという表現ではどうか?」

上記のような意見を討議した結果「薬学的知識を活用するスペシャリストとして責任・ 覚悟を持ち、他職種との連携をとりながら、多様化した社会において個々に適した健康福 祉に貢献し続けられる薬剤師を養成する」という教育研究上の目的に対応するディプロマ ポリシーを作成した。

- 1. チーム医療において、薬学的知識を活用し、個々の患者に適した薬物治療を主導する。
- 2. 薬学的知識を市民に提供することで地域の健康の増進に貢献する。
- 3. 最適な意思決定に導くために、多様な価値観を汲み取り、意思疎通する。
- 4. 医療を取り巻く状況に常に関心を持ち、社会に問題点を発信する。
- 5. 高い論理的思考力に基づいて、問題点を見出し、解決する。
- 6. 多様化するニーズに対して、適した薬剤師としての職能を発揮する。

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

第二部では、「6 年制課程の卒業時のアウトカムを考える」を主要テーマとしてセッション 1 からセッション 3 において討議した。主要テーマについて討議するために、まず、薬剤師に対する社会からのニーズを探索する議論がなされた。

セッション1では、「次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズは?」について、KJ 法によるニーズの抽出を行った。各自が考える社会からのニーズを文殊カードに書きだした結果、最終的に73個のニーズが抽出された。これらカードの語るところを聞き、12種類の志を同じくするカードの集合体、すなわち島を作成した。12種の島について、それぞれ島を形成しているカードの内容を包括して示す名前を付けた:1)教育できる薬剤師、2)研究能力が高い薬剤師、3)未来の技術に対応できる薬剤師、4)新しい価値を創出・発信できる薬剤師、5)災害時に対応できる薬剤師、6)プロフェッショナルな薬剤師(倫理感を含む)、7)グローバルに対応できる薬剤師、8)高いコミュニケーション能力を持った薬剤師、9)薬物療法の実践能力をもった薬剤師、10)多職種と連携できる薬剤師、11)医療行政に関与できる薬剤師、12)セルフメディケーションに対応できる薬剤師。12?)プロフェッショナルな薬剤師が、各島を媒介した。



セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション2では、「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」について、セッション1の討議の内容を基に議論した。議論が進む中、先に述べた12種の島の名前が薬剤師の手段であったことから、改めて能力に関する3つの島を作成した。①医療上の様々な問題点を提起し、解決し情報発信する能力、②健康サポートに必要な指導、医薬品、医療機器、医療材料を適切に供給できる能力、③患者の多様性・考え方を考慮したサービスを提供する能力。そして、教育研究上の目的を「あまねく人類の健康な生活を確保するため、種々の問題に対する高い問題解決能力、医療サービスの提供能力、患者・医療関係者の多様な価値観を理解する能力を有した、高いプロフェッショナル意識と倫理観をもつ薬剤師を養成する。」とした。

次世代の薬剤師に求められるニースを満たすための資質・能力と「教育研究上の目的」

I-B 班

KJの島の名札	資質·能力
	医療上の様々な問題点を提起し、解決し情報発信する能力
	健康サポートに必要な指導、医薬品、医療機器、医療材料、適切に供給できる能力 (手段としてフィジカル、コミュニケーション、病気予防 も含む広い概念)
	患者の多様性・考え方を考慮したサービスを提供する
発決能力、医療サー	↓ 養な生活を確保するため、 種々の問題に対する高い問題 −ビスの提供能力、 患者・医療関係者の多様な価値観を ∪た、 高いプロフェッショナル意識と倫理観をもつ薬剤的
C 医14.7 0。	

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

ディプロマポリシー (DP) とは、卒業までに学生が身につけるべき資質・能力を明確化したものである。セッション 2 で作成した教育研究上の目的を達成するために学生が身につけるべき資質・能力を「問題解決能力」、「医療サービスの提供能力」、「多様な価値観を理解する能力」の 3 点とし、これらを習得することで「高いプロフェッショナル意識と倫理観をもつ薬剤師」になれると考えた。そこで、評価可能かを意識しながら、上記 3 点を達成するための DP を作成した。

1.問題解決能力 → DP1. 問題点を抽出し、論理的に解決し、発信することができる。

問題解決能力を身につけるためには、研究をすることが必要であり、卒業論文の完成度を上げることで身につくのではないかとの意見で一致した。ただし、その出来栄えをどのように評価するかは今後検討が必要である。意見として、卒論で論理的思考は評価しうるが、問題点の抽出能力を評価できるかは難しい、発表態度から問題発見能力が図れるのでは、等が挙がった。

また、セッション1で議論した次世代の薬剤師に求められることとして、現在の薬剤師はエビデンスベースの情報発信能力が低いことを挙げていたことから、DPには「情報(研究成果)を発信する能力」まで含めたいとの意見がでた。ただし、どのレベルまでを必須とするかについても合わせて議論し、DP到達度の評価としては「卒論発表」を最低レベルとすること、学会発表や論文投稿、その後の総説の執筆や、一般社会への情報発信等はアドバンストとすべきとの意見で一致した。

2. 医療サービスの提供能力 → DP2. 個人のライフサイクルに合わせて健康状態をモニタリングし、適切な健康サポートや薬物療法を提供できる。

医療サービスを考えた場合、「薬学的見地から患者さんのニーズに応じて情報発信ができる」、「副作用のモニタリング」、「健康サポート薬局としての情報発信」、「セルフメディケーション」などのキーワードがでた。例えば、OTC や健康食品に関するエビデンスは不十分であり、適切と思えるものを選択し患者に提供する、その効果をモニタリングする等が次世代の薬剤師には求められていると考えた。しかし、パフォーマンスを具体化しすぎると逆に狭くなり目的が果たせないかもしれないとの懸念があるため、包括的な表現とした。一方、「薬物療法への介入と適切なフォローアップが大事」との点については次世代においても重要であるため、DP に反映させることとした。

一方、覚悟を問うキーワードが必要ではないかとの意見も出たが、十分な議論ができなかったため、DP に加えなかった。

3. 多様な価値観を理解する能力 → DP3. 薬剤師として接する方のバックグラウンドを理解・受容し、意思決定をサポートできる。

DP2「健康状態をモニタリング」する場合、コミュニケーション能力が一つのカギになると考えられた。さらに、次世代の薬剤師には「グローバル化」が求められると考えたことから、健康に関係する部分(年齢・性別・人種による代謝の違い等)だけではなく、文化的背景も含めた理解(ナラティブな目線)が重要ではないかと考えた。しかし、異文化を

含めた「様々な価値観に対応できる」をどのようにパフォーマンスとして図るかを考えた場合、色々なバックグラウンドを持つ方々を評価者とする等の工夫が必要となり、大学では現実的ではないように思えた。従って、「できる」までは要求せず、様々なバックグラウンドの患者の主張を理解し受容できるかを態度として評価するとの意見で一致した。さらに、「理解・受容」のみでなく「提案する」ことも含めたいとの意見が出された。しかし、提案は一方的であるため、患者と一緒に薬物治療を考え「患者の意思決定をサポートする」ことをパフォーマンスとして求めることとし、DPに反映させた。

一方、「患者」という言葉を使った場合、大学教育で達成できるのか、また、患者でない 人も対照に加えたいとの意見から、「薬剤師として接する人」という方が包括的で良いとなった。また、「サポートできる」は要求しすぎではないか、「サポートする姿勢を持てる」 の方が妥当ではないかとの意見も出たが、結論には至らなかった。

4. その他、追加事項 → DP4. 継続的な自己研鑽の必要性を説明できる。

自己研鑽する姿勢を持っていることを DP に明記したいが、パフォーマンスとして評価できる否かを議論した。この点については、大学の正規のカリキュラム以外の勉強を自ら積極的に行う態度を評価できるのではないか、例えば、地域の研修会等への自主的な参加や、企画運営への積極的な関わりなどを評価する、また、報告書による評価も可能であるとの結論に至った。よって、「必要性を説明できる」というパフォーマンスを DP に加えた。

一方、プロフェッショナリズムに関する DP を設定すべきではないかとの意見が出された。 しかし、他の 3 つの項目を満たすことで自然と涵養されるものではないかとの意見から、 DP を別に設定する必要はないとした。また、DP1~3 のパフォーマンスの当然の前提となる 「知識」に相当する部分を DP に含めるべきかとの意見もあったが、次世代の薬剤師には取得していて当然として DP には含めないこととした。 第2部セッション3

I-B 班

【教育研究上の目的】: あまねく人類の健康な生活を確保するため、種々の問題に対する高い問題解決する能力、医療サービスを提供する能力、患者・医療関係者の多様な価値観を理解する能力を有した、高いプロフェッショナル意識と倫理観をもつ薬剤師を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

- 1. 問題点を抽出し、論理的に解決し、発信することができる。
- 2. 個人のライフサイクルに合わせて健康状態をモニタリングし、適切な健康サポートや薬物療法を提供できる。
- 3. 薬剤師として接する方のバックグラウンドを理解・受容し、意思決定をサポートできる。
- 4. 継続的な自己研鑽の必要性を説明できる。

発表会では、DP1「発信する」とはどのようなことを想定しているのか、DP2「個人の」とは対照は誰か、といった指摘を受けた。これらの点を議論し改定するとともに、次世代の薬剤師に求められることとしてあげていた「新たな薬学のニーズを探索する」及び「多職種連携」という文言を加え、最終的に完成したプロダクトは以下である。但し、DP4については「薬剤師として接する方」を明確にする必要がある(例えば、医療関係者、患者や地域住民など)と考えられたが、残念ながら十分な議論の時間を取れないままに次のセッションに進まざるをえなかった。

ディプロマ・ポリシー

第2部セッション3

I-B 班

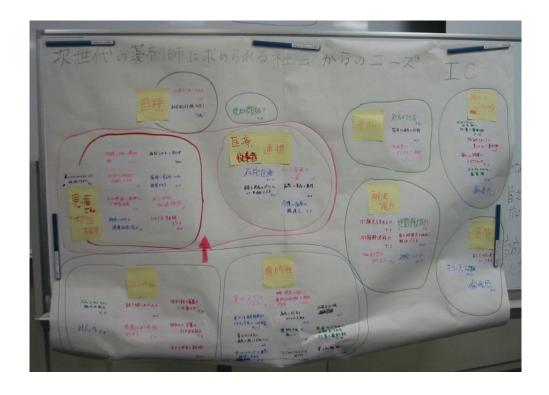
【教育研究上の目的】: あまねく人類の健康な生活を確保するため、種々の問題に対する高い問題解決する能力、医療サービスを提供する能力、患者・医療関係者の多様な価値観を理解する能力を有した、高いプロフェッショナル意識と倫理観をもつ薬剤師を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

- 1. 問題点を抽出し、論理的に解決し、発信することができる。
- 2. 高度化する医療に対応すべく、新たな薬学のニーズを探索し、エビデンスに基づいて発信することができる。
- 3. 患者や地域住民個々の背景に合わせて健康状態をモニタリングし、多職種と連携しつつ、適切な健康サポートや薬物療法を提供できる。
- 4. 薬剤師として接する方のバックグラウンドを理解・受容し、意思決定をサポート できる。
- 5. 継続的な自己研鑽の必要性を説明できる。

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

セッション1では「6 年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」について、K J 法により協議した。まず、各自が思う「社会から求められるニーズ」についてカードに書き出した。様々なカードが書き出され、カードに書かれた意味を説明しながら、内容が近いカードを「島」として分けた。その島として、「目標」、「患者さんの相談相手」、「医療従事者との連携」、「コミュニケーション」、「専門性」、「予防」、「解決能力」、「時代についていける」、「資質」の9つのグループ化された島と「現状の問題」という独立した島、計10の島ができた。次に「目標」の島と相反する「現状の問題」を横に並べ、この2つの島を中心に議論をし、関連性がある島同士を矢印で示した(写真: KJ プロダクト)。最終的に、「社会的信頼を得る」ということが「社会から求められるニーズ」の答えになるであろう(そのために何をするか)という結論に至った。



セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション 1 で「6 年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」について KJ 法を用いて考えた。セッション 2 ではセッション 1 での内容をもとに「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」について協議した。

まず、セッション1での KJ 法で抽出のニーズを参考にし、そのニーズを満たすための資質・能力を箇条書きにした。その結果、「コミュニケーション」の"島"の資質・能力は、

コミュニケーション能力、「専門性」の"島"の資質・能力は、薬の専門知識、「患者さんの相談相手」の"島"および「医療従事者との連携」の"島"の資質・能力は、コミュニケーション能力・専門性という結論になった。ここまでの議論で「薬剤師としての覚悟・自覚」が必要であるとの意見があり、これをキーワードに議論を進めた。引き続きニーズを満たすための資質・能力について協議し、「時代についていく」の"島"の資質・能力は、情報収集能力・対応力、「予防」の"島"の資質・能力は、薬・医学についての専門知識、「資質」の"島"の資質・能力は、医療人としての責任、「解決能力」の"島"の資質・能力は、エビデンスをつくる・研究マインド・臨床につながる研究が必要という結論になった。これらの議論で、「対応力」や「高度な専門知識」が必要であるとの意見がありこれをキーワードとした。これら抽出された3つのキーワードと様々な意見をもとに教育研究上の目的を文章化した。その結果、本グループの教育上の目的は、「時代・個々の患者に対応できる能力を有し、高度な専門職として、より責任感と覚悟のある薬剤師を育成します。」となった。

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

セッション 1/2 の詳細は別項に纏められたとおりあるが、その中心としてスムーズに全班員が共有(かつ最終日までの思考の根底に存在)した次世代薬剤師像として、

- I) 子供が憧れる職種・職能に値する
- Ⅱ) 人々が自身の健康に関して思いつく第一の相談先として存在する

の2点が存在した。この理想像に適う人材を形容する詞として、「高度な専門職の1つとの 社会認識と尊敬を薬剤師が得る未来の形成を託せる人材の育成」を掲げ、その実現に向け た「教育研究の目的」を「セッション2にて」文章にまとめている(別頁参照)。

続く本セッションでは、セッション2最後の発表会での他班の発表や質疑応答を踏まえ、 先ずは自班の掲げた「教育研究上の目的」の修正について議論した。その結果として得た 最終産物が以下である。

教育研究上の目的:

高度な専門知識を備えた医療人として、時代・個人に対応できる能力を身につけた、責任感と覚悟を持つ薬剤師を育成します。

上記目的を達成し、かつ前出 I/Ⅱ に適う人物を育むにあたり、どういった能力を卒業生に育むべきであるかについて、先ずはキーワードとして列挙していくこととした。その結果として挙げられた能力が以下の8点である。

目的の達成に向けて育むべき能力:

- a) 発信力・アピール力
- b)発想力

c) 想像力

- d) 自発的学習能
- e)責任感・覚悟
- f) 倫理観

- g)解析する力
- h) 個々の患者に適切な対応ができる

続けて上記 a) ~ f) について、その意図・真意、卒業生が得た能力を活かすことを望むフィールドといった周辺情報を、班員が自身のバックグラウンドを基盤とした推定をしながら発言していき、議論を深めた。その後さらにその「優先順位」や「重み」といったファクターを考慮しながら文章化し、キーワードからディプロアポリシーへの昇華を試みた。その結果が以下6項目である。

ディプロマポリシー:

- 1. 薬剤師に必要な倫理・責任を理解し、人類の健康的生活を確保する医療人としての 覚悟を持つ
- 2. 問題点を発見・解析し、それらを科学的根拠に基づいて解決できる
- 3. 理想の薬剤師を目指した自発的学習能力を身につける
- 4. 個々の患者について必要な情報を判断・収集し、個別化した薬物治療を提案できる
- 5. 薬学研究を通じて医療の進歩に貢献できる
- 6. 薬剤師として公衆衛生の増進を社会へ発信することができる
- 1. は世代が変わろうとも普遍的に薬剤師に求められるものとして欠かすことはできない との考えの下、少しも新しくはないが序列の最上段にあるべきとの考えで一致した。加え て薬剤師が地域医療の中心として、地域住民が身体/健康にまつわる相談の 1st コンタクト 先としての信頼を得るためにも、これまでにも増してその意識が必要と考えた。

我々が理想とする「子供からの憧れ」を薬剤師が得るためには、先ず薬剤師の仕事が見える必要があり、かつ<u>一医療人として他職種と対等に、患者や社会の健康のために熱く議論を戦わせる姿</u>が、必要なファクターの1つである考えた。この実現には医療現場でもっと積極的に発言・提言をしていくことが大事であり、そのためにはより高い科学的戦闘力・理論武装が基盤となるとの考えより、2.のポリシーを設定した。

- 3. については、医療に纏わる情報や取り巻く技術が急速な変化をしていく中、<u>最新の医療状況と地域とをつなぐ責任を負う者として、常に新しい情報に対応できるだけの学習を生涯続けられる</u>人材でいて欲しいとの想いと同時に、常に現時点の自分を顧みつつ、より優れた人材を目指す向上心を持ち続けて欲しいとの想いを込めている。
- **4.** は受診費用が高騰している現状の下、薬剤師が自らの所属する<u>地域全体の健康に責を</u> <u>負う存在として第一の相談相手として存在し、トリアージ業務を遂行できる</u>ことを求めて いる。これも薬剤師業務の見える化と存在感の向上、そしてその先は「憧れ」へと、繋が 理広がるものと考える。
- **5.** は基礎研究者が多い当班故に 2. と別個に設定された可能性を否定できないが、<u>基礎と</u> <u>臨床をつなぐ意識をもっと強調したい</u>という想いを込めている。

最後に 6. は他の項目にも重なる想いではあるが、健康について相談する ファーストコンタクト先としての認識を薬剤師が得るために必要な活動として、積極的な情報発信を続けることが必要であると考え、設定した。

以上が本班の作成したディプロマポリシーとその根底にある想いである。

最後に全体に対する個人的な感想を記しておきたい。本WSでは「次世代」という言葉が端々で推されていたものの、セッションが進むにつれてこの言葉をどう捉えるのか、線引きが難しくなっていった。「これは既に今の時点で求められているもの」という指摘を受ける機会が多かったのも1つの要因かもしれない。しかし、「すでに求められてはいるものの、現在の薬剤師育成において十分に満たされていない能力…①」は、必ず次世代にも求められるものではないのか。「現時点で育むことに成功できている能力…②」も、その維持は社会的ニーズであるはずで、省かれていいものではない。①②の達成を基盤としたうえで「新たに何らかの能力…③を付与」することで、初めてより良い薬学分野の形成を目指すことができる。物事には「基礎」「基本」「応用」のステージがあり、近年「応用力」ばかりが脚光を浴びている。しかしこれにばかり注力して、何が達成されるのであろうか。これまでの薬学教育の変遷について、その歴史と変革に伴う「獲得物」「喪失物」について振返り評価する過程を踏まえなければ、こういった議論そのものが空虚であるようにも感じた。

一方で年寄りじみたことを言うようでもあるが、社会的に年々「考える力」「考え抜く力」が低下しており、「声の大きい者」の「思い付きに近い考え」に安易飛びつく傾向が見られるように思う。また「考える力」を有している者がその発揮先を、「いかに楽をするか」というある意味「低次元」の思考に使う傾向も否定できないと感じている。より良い次世代のために何ができるかを考えるべきではなかろうか。これは自身も含めて国民全員が意識すべき問題であるように思う。次世代の薬剤師教育云々という以前に、薬剤師を任せられる、教員を任せられる、報道を任せられる、選挙で一票を任せられる、そういった人材の育成とともにその判断ができる個人の育成についての議論やチャレンジが、もっとなされるべきであるようにも感じている。

II A 班

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

第二部のセッション1では、薬学部6年制課程の卒業時のアウトカムを考えるうえで、 次世代の6年制薬学教育に求められる社会からのニーズ、すなわち10年、20年後の「次世 代の薬剤師に求められる社会からのニーズ」について KJ 法により検討した。

まず、3 枚一組となったシールに、各班員がニーズを 1 つずつ書き込み、用紙を交換しながら新たにニーズを追記する作業を繰り返すことで、班全体で 66 のニーズを抽出することが出来た。各カードが「語る」ところをそれぞれの班員から聞き取り、さらに他の班員から意見を重ねることで、班全体で意見の共有を図った。続いて、挙げられたニーズをカテゴライズした結果、下記の 11 個の島に分類することができた。各島には名札を作成した。「探究心を持つ人」、「研究能力」、「問題解決能力」、「処方提案」という4つのニーズが孤独なカードとなったが、重要であるため別に扱うこととした。

<島の名札およびカードの内容の抜粋>

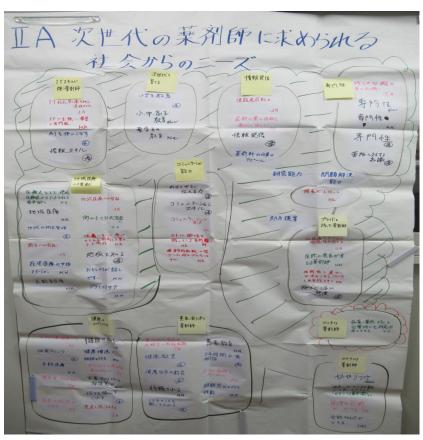
- ①コミュニケーション能力
 - ・わかりやすく伝える力 ・コミュニケーションスキル ・薬学的知識に根ざした対人 プロフェショナル ・ヒトに興味を持っている薬剤師
- ②プライドを持った薬剤師
 - ・他医療スタッフとの関係性が保てる ・医師に意見が言える ・物おじしない態度
- ③専門性
 - ・専門性 ・特殊な病気の薬の知識 ・薬物に対する知識
- ④情報発信
 - ・情報発信能力 ・薬剤師の仕事のアピール
- ⑤次世代を育てる
 - ・小中高生教育 ・薬学生の教育
- ⑥IT スキルに強い薬剤師
 - ・IT にも強い薬学の専門家 ・AI を使いこなす ・情報スキル ・IT 化に影響されない業務ができる
- ⑦地域医療への貢献
 - ・地域医療への貢献 ・衛生への貢献 ・町の小さな化学者へ ・在宅医療の中核ステーション ・地域に頼ってもらえる ・おとしよりが話しやすい ・プライマリケア
- ⑧健康のスペシャリスト
 - ・定期的な健康サポート ・漢方やアロマ ・病気の相談が出来る ・何でも聞いてくれる ・薬やサプリメントの相談窓口 ・予防医療
- ⑨患者に寄り添う薬剤師

- ・健康教室 ・24 時間お薬相談 ・子供のことを聞いてくれる ・メールでの相談
- ・薬以外の食品や化粧品の知識

⑩かかりつけ薬剤師

- ・病気になったらまず薬局へと思ってもらえるかかりつけ薬剤師 ・受診勧奨が出来る ①マルチな薬剤師
 - ・病薬、薬局、OTC と災害時にも対応が全てできる

次に、島同士の関係性について検討し図式化した。次世代に重要となるのは「情報」ではないかという意見が多く出された。大量のデータを処理する能力、正しい情報を発信する能力、さらには薬剤師の仕事をアピールする情報発信力も求められるとされ、重要な位置に置かれた。また、次世代を育てていくことも重要であると考えた。小学生からの薬(薬物)教育だけでなく、次世代の薬剤師を育てるための教育、薬学生への教育の重要性について議論がなされた。これまで以上に専門性が求められてくるという点は、班員の意見が一致した。最後に、全ての島を大きな木で表した。今も次世代も変わらずに根となるのは「地域医療への貢献」、「健康のスペシャリスト」「患者に寄り添う薬剤師」「かかりつけ薬剤師」であると考えた。次世代でも中核となるのは「コミュニケーション能力」であり、太い木の幹に置かれた。今後、新たに伸ばすべき枝には「IT スキルに強い薬剤師」「情報発信」「次世代を育てる」を位置づけ、これまで以上に伸ばすべき枝には「専門性」を置いた。



セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

先の KJ 法で抽出したニーズを満たすためにはどのような資質と能力が必要か。そして「教育研究上の目的」を文章化することを課題としている。まず、前夜の厚生労働省安川孝志先生の教育講演で伺った話をもとに、KJ 法で抽出した 11 個の島(ニーズ)の中でも特に5つの島(ニーズ)が重要であると考えた。これらの島(ニーズ)を満たす上で必要とされる資質・能力、および教育研究上の目的は議論の結果、以下のようにまとめた。

教育研究上の目的を文章化する際、何のためにこの資質・能力を高めるのかという議論

KJの島の名札	資質·能力
コミュニケーション 能力	相手の想いを感じる ドクター(他職)、患者との話し方(相手に合わせる) 相手の理解力を感じる 積極性、忍耐強さ、表情・表現力
情報発信	エビデンスの発信、薬学以外の分野での発表 選択、加工、伝達(相手に合わせる) 正確な医療用語を用いることができる 臨床データを他職種、患者に発信 データを正しく解釈(医療統計) 講演する能力
専門性	知識、考える力、向学心、やる気、生涯教育 普遍性→専門性
ITスキル	コンピュータを使いこなせる(Word, Excel, PowerP.) 適切な情報を入手する、リテラシー、情報の正確性の
KJの島の名札	判断、著作権、新しい物資の配外、好奇心
教育	コミュニケーション能力(信頼関係を築き患者、医療スタッフとの距離を近づける)、ビジョン(目的の明確化)薬剤師像の具体化、後輩指導、医療の発展、患者の声の傾聴、信頼関係の構築、必要とされる薬剤師、対人、患者の病気の治療、予防、副作用の回避、問題結能力
教育研究上の目的	を文章化

国民の健康を確保し、社会から必要とされる薬剤師を養成するために、

- ①社会から信頼されるコミュニケーション能力
- ②医療の発展に繋がる情報収集力、エビデンス作り、情報発信力
- ③今後専門性やIT化などの多様化する薬剤師業務に対する対応力を身につける

に時間を要した。安川先生は御講演の中で、薬剤師の仕事は患者の病気を治すこと、薬の副作用から守ることであるされていた。 II A班は、さらに、社会から必要とされること、未病に取り組めることも必要であると考え、幹となる①コミュニケーション力、次世代に最も必要とされる②情報力、多様化する薬剤師業務への③対応力を身につけた「国民の健康を確保し、社会から必要とされる薬剤師を養成する」を教育研究上の目的とした。なお、プロダクト発表後の見直しにより、④問題を抽出選別し、解決する能力を追加した。

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

第二部のセッション1および2では、KJ法により「次世代の6年生薬学教育に求められる社会からのニーズ」を収集し、そのニーズを満たす資質・能力について整理し、「教育研究上の目的」を3点に分けて文章化した。さらに、セッション2の発表時に、他グループからご質問・ご指摘をいただいた点を受けて、「教育研究上の目的」を再考・修正し、次の4つとした。

国民の健康を確保し、社会から必要とされる薬剤師を育成するために、

- 1. 社会から信頼されるコミュニケーション能力、
- 2. 医療の発展につながる情報収集能力、エビデンス作り、情報発信能力、
- 3. 今後専門性や IT 化などの多様化する薬剤師業務に対する対応力、
- 4. 問題を抽出選別し、解決すること、
- を、身に着ける。

本セッションでは、この教育理念および教育研究上の目的に基づき、「どのような学修成果をあげれば、卒業を認定するか」の具体的な方針となる『ディプロマポリシー』を作成することにした。ディプロマポリシーは、学習者の能力を観察可能・評価可能なパフォーマンスとして記す必要があるため、この点に留意しながら、意見を出し合うことにした。私達は、セッションの最初に修正し、掲げた 4 つの教育目的について、各テーマ 1 つずつについて意見を出し合って議論を重ねるというやり方ではなく、まずは各々の意見をどんどんあげていき、最終的に良い意見を選んで纏めるという方法を選択した。その結果、非常に多くのディプロマポリシーの候補があがった。これらの候補の中で同義のものを統合し、本来の目的とは異なる方向性のものを除外し、篩にかけたものの一部を以下に記す。

- ・国民の健康を確保するのに必要な十分な薬物の知識を身につけ、正しい薬物情報を患者 および医療スタッフに提供できる。
- ・医療人として正しく行動できる。根拠に基づき発信できる。
- ・患者(家族)の声を拾う、社会に発信できる(どのように?)。
- ・薬物について説明できる、健康を確保できる。
- ・情報を正しく選別、理解できる。適切な情報源から適切な情報を検索できる。
- ・IT ツールを正しく使える、新しいことに興味を示す探求心
- ・科学的課題を抽出し正しい方法で結果から検討できる。
- ・論理的な結論を導き出せる。
- ・自ら行った研究について発表を行うことができ、適切に質疑応答を行うことができる。
- ・多職種連携、役割を理解し尊重し情報提供ができる。科学論文を検索、理解、説明できる。

- ・治療ガイドラインの理解、最新の情報を入手し説明できる。
- ・多様化 先の薬剤師の役割を考えることができる。
- ・エビデンスに基づき、薬剤師の役割を PR できる。
- ・地域の人とコミュニケーションがとれ、問題提起できる。
- ・自己研鑽を継続しつづけることができる。
- ・患者の状態を基に処方提案や投薬設計をする。

ここまでの段階で、スモールグループディスカッションに許された時間の殆どを使って しまっており、発表時間が迫ってきていたため、大急ぎでディプロマポリシーの仕上げに 移った。

1. 医療スタッフの一員であることを理解して高い倫理観を持って行動する。

薬剤師は医療スタッフの一員であり、高い倫理観が必要である。薬剤師のあらゆる行動は、高い倫理観の上で実施されなければならない。当然のことではあるが、まず、最初のディプロマポリシーとしてこの点を明文化すべきと考えた。

2. 国民の健康を確保するのに必要な医療知識を身につけ、正しい薬物情報を患者および医療スタッフに提供する。

薬剤師は薬の専門家として、他の医師や看護師から一目置かれる存在でなければ、医療チームの一員としての信頼は勝ち取れない。しかし、将来的には、単に薬の専門家だけの薬剤師では通用しない時代が到来すると思われる。すなわち、国民の健康を守るために、医師や看護師などと対等に討論できるだけの薬以外の医療知識が必要である。そのような知識をきちんと身につけた上で、正確な薬物情報を患者や医療スタッフに提供すべきだろう。この点を纏めあげて、2つ目のディプロマポリシーとした。

3. 地域で活動する中で問題を提起し、解決策を議論する。

①医療の地域格差が社会問題となっていること、②そもそも薬剤師は「町の科学者」として、人や地域に近い存在であることに本来の強みがあると考えたこと等から、これからの薬剤師は、地域に寄り添い、地域で活躍できる能力が必要であろう。よって、学生のうちからボランティアなどの地域活動に積極的に参加し、地域の医療・福祉問題について考え、解決策を模索する能力を身につけておきたい。このポイントを 3 つ目のディプロマポリシーとして選定した。

4. 医療の発展に寄与するために、最新の研究に取り組みその成果を発表する。

医療は進歩を続けており、常に新しい薬物や知識・概念が生まれてくる。続々と誕生する多くの情報を正確にキャッチし、処理し、現場や社会に還元するためには、学生のうち

に最新の研究に真剣に取り組み、目的遂行のために試行錯誤する能力、得られた実験結果を多面的に考察し、分かり易くプレゼンテーションする能力などを習得することが重要である。4つ目のディプロマポリシーには、このポイントを掲げることにした。

5. 患者の状態を基に投薬設計をし、処方提案する。

20 年後の薬剤師は、現在よりも処方設計にかかわる仕事に携えるようになっている(すなわち、今後 20 年でそのレベルまで薬剤師の価値を社会から認めてもらっている)という仮定のもとで、患者の状態を把握し(簡単な診断をし)、投薬設計を行い、医師に処方提案できる(もしくは薬剤師自身で処方箋を出せる)能力を身につけさせたい。そのためには、病気に関する深い知識、患者や他の医療スタッフとのコミュニケーション能力、時々刻々と変化する患者の病状に合わせた薬物選定・考察力(幅広い応用力)が必要である。これを実現できるだけの能力を卒業時に学生に身につけてもらうのは、かなりハードルが高いが、真の薬剤師業務の理想を考え、今後の薬剤師への希望も含めて、最後のディプロマポリシーに組み込むことにした。

第2部セッション3 プロダクトのイメージ

TIEA TI

【教育研究上の目的】: 国民の健康を確保し、社会から必要とされる薬剤師を 養成するために

- ①社会から信頼されるコミュニケーション能力
- ②医療の発展に繋がる情報収集力、エビデンス作り、情報発信力
- ③今後専門性やIT化などの多様化する薬剤師業務に対する対応力
- 4問題を抽出選別し、解決する能力
- を、身につける

【ディプロマ・ポリシー】パフォーマンスとして記載

- 1. 医療スタッフの一員であることを理解して高い倫理観を持って行動する。
- 2. 国民の健康を確保するのに必要な医療知識を身につけ、正しい薬物情報を患者および 医療スタッフに提供する。
- 3. 地域で活動する中で問題を提起し、解決策を議論する。
- 4. 医療の発展に寄与するために、最新の研究に取り組みその成果を発表する。
- 5. 患者の状態を基に投薬設計をし、処方提案する。

IIB班

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

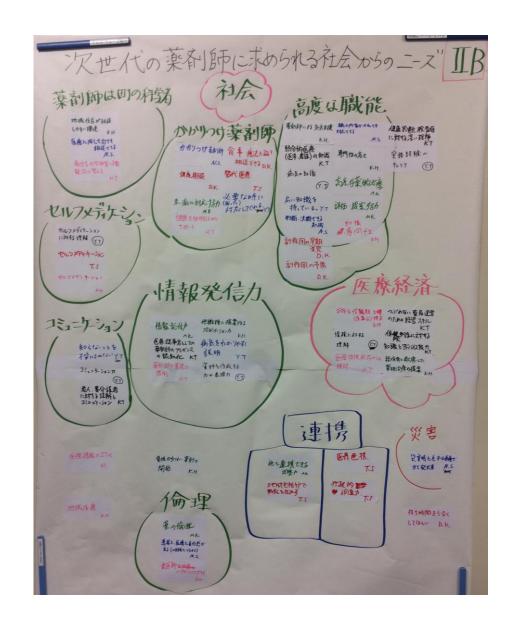
セッション1では、「次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズについて」というテーマで、KJ法を用いて意見の集約を行った。

このグループで行う最初の作業ということもあり、少々緊張感がある中始まったが、「次世代」を見据えた多くの意見が出された。それぞれが異なる立場で日々の業務を行っていることもあり、多種多様な意見が出され、普段は考えないことに関しても、気付かされるとても良い機会になった。ただ、多種多様な意見のため、島づくりに難航し、最初のセッションから時間をオーバーしてしまい、これから続く3日間に不安を残す船出となった。

難航した島づくりでは、「地域で活躍する薬剤師」と「高度な職能を持つ薬剤師」に分けて考えることにより少しずつ形が見えてきた。「地域で活躍する薬剤師」としては、「セルフメディケーション」、「かかりつけ薬剤師」という島から構成され、"未病に対応する力"というカードに代表されるように、病気になる前の健康管理が今後さらに重要であるというメンバーの意見が多かった。さらに、「薬剤師は町の科学者」として、"医療に関して何でも相談できる"、"身近な化学物質に対する疑問に答える"といったような地域で、薬剤師が様々な場面で活躍できることを示す意見が出てきた。また、「高度な職能を持つ薬剤師」の島に属するカードが最も多く、次世代の薬剤師への期待が込められていた。その中には、"職の内容がかわっても対応できる"といった、日々変わっていく医療の中で、薬剤師がどのように貢献できるか考えさせるカードには、今後の薬剤師に対する、不安と期待を含んでいると思われた。

これらの薬剤師が医療を担う上で必要な「コミュニケーション」、「情報発信力」、「倫理」、「連携」という島に属する意見も多かった。「コミュニケーション」に関するカードが少なかったのは、他のメンバーが書くだろうという深読みがあったことなどが理由だろうと話し、"次世代では、コミュニケーションはできて当たり前"とする共通認識は議論の中で確認された。「情報発信力」の中には、医療情報を患者や他職種に説明する力に加えて、【社会】を意識して、"薬剤師のプレゼンスの認知化"が必要であるという意見に、皆さんが頷いていた。

また、「医療経済」に属するカードが多く、「医療経済」に関する議論が盛り上がり、医療経済の重要性に関して共通意識を持つことができ、この後の IIB グループの特徴となるきっかけとなった。



セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション2では、「次世代の薬剤師に求められるニーズをみたすための資質・能力は?」というテーマで、初日に KJ 法により作成したニーズの島をみたすために、どのような資質・能力が必要か話し合われた。多くの島で、必要とされた共通する能力として、"基礎と臨床の知識を患者や社会の利益に活用できる能力"特に"情報発信能力"が必要であるということに、全員の賛同が得られた。これらの議論を踏まえて、「IIB 大学薬学部では、地域や世界の医療を担う次世代薬剤師輩出を使命とし、薬の倫理に基づき、深い基礎と臨床の知識に裏付けされた高度な職能と、高い情報発信能力・IT を見据えた情報処理能力、多職種との調整力を持つ人財の育成に務める」という教育研究上の目的に集約した。

セッション2でのプロダクト

KJの島の名札	資質·能力
薬の倫理	薬の倫理をもって、患者に対する責任感を果たす
研究能力	患者を見据えた創薬マインド、情報収集・取捨選択・情報発信能力 研究の企画立案、問題発見・解決能力
医療経済	医療保険制度に精通、本質的理解、経営能力
薬剤師は町の科学者	基礎と臨床の知識を患者や社会の利益に活用できる情報発信能力
かかりつけ薬剤師	基礎と臨床の知識を患者や社会の利益に活用できる地域社会の健康に関する情報発信能力
高度な職能	基礎と臨床の知識を患者や社会の利益に活用できる情報発信能力
セルフメディケーション	基礎と臨床の知識を患者や社会の利益に活用できる相談されやすいコミュニケーション能力、情報発信能力
連携(多職種連携、 地域連携、災害薬事)	薬剤師の職能を活かし、多職種や地域と調整しながら協働できる
医療情報のIT 化	IT 化に活用できる、情報処理能力

IIB 大学薬学部では、地域や世界の医療を担う次世代薬剤師輩出を使命とし、薬の倫理に基づき、深い基礎と臨床の知識に裏付けされた高度な職能と、高い情報発信能力・IT を見据えた情報処理能力、多職種との調整力を持つ人財の育成に務める。

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

セッション3では、「ディプロマポリシーを作ろう」として、セッション1「次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズは?」、セッション2「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」を受けて、ディプロマポリシーの作成を行った。 ディプロマポリシーの基本的な考え方は、

『各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるもの。』である(「3つのポリシーの策定及び運営に関するガイドライン」平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会 より)。作成にあたっては特に、卒業時に有する資質・能力などをパフォーマンスとして評価できるよう示すことが重要となる。

IIB 班では、セッション1、2での話し合いを通じて、「教育研究上の目的」を「地域や世界の医療を担う次世代薬剤師輩出を使命とし、薬の倫理に基づき、深い基礎と臨床の知識に裏付けされた高度な職能と、高い情報発信能力・IT を見据えた情報処理能力、多職種との調整力を持つ人財の育成に務める。」としていたが、この目的の見直しを含めて議論を進めた。その過程で、次世代の薬剤師としてまずは地域や世界での医療について議論が行われ、世界での医療現場や研究での活躍をイメージして、コミュニケーションや英語力などの意見が出た。また、現在および将来においては英語に限らないということで、語学力とすることとなった。地域としては、「町の科学者」として地域社会の健康福祉への活躍を

期待しており、その過程で必要とされる資質として、問題発掘や、信頼、責任感、科学リテラシーなどを有することとして意見がまとめられた。

目的の中の「高度な職能と、高い情報発信能力・IT」などについても意見交換がされ、職能においては、他職種の仕事として、看護師や医師、介護士などの仕事や内容についてもある程度の知識・理解を持った上で統合的医療への関わりができること、さらにはそれらを踏まえた上で、処方設計や解析、モニタリングやアセスメントできることまでを求めることとした。また、社会的なニーズを的確につかみ、そこから現状の課題を見出し、その解決のために自ら研究を計画、遂行、さらには発信までできるような人であることが望ましいとして、それらもディプロマポリシーとして記載をした。IT など、情報技術についても話し合われ、高度な職能と高い情報処理能力とを合わせて、「高度化する医療と多様化する患者ニーズに対応すべく、IT を有効活用する」というポリシーが作成された。

IIB 班の一つの特徴は、医療経済に関する意識が最初から高かったことである。保険制度や、経営スキルなどのことがこれまで話し合われてきたこともあり、この点を IIB 大学のポイントとすることが話し合われた。特に、医療保険制度や、制度が変わる中でも対応していけるだけの能力の必要性、今後の活躍などの期待を含めて、「医療保険制度の本質を理解し、変革する制度に対応できる柔軟な経済視点を有する。」というポリシーを作成するとともに、目的に「高い経済意識」を追記した。

以上から、図1のようなプロダクトを完成させた。

第2部セッション3

IIB班

【教育研究上の目的】:IIB大学薬学部では、地域や世界の医療を担う次世代薬剤師輩出を使命とし、薬の倫理に基づき、深い基礎と臨床の知識に裏付けされた高度な職能と、高い情報発信能力・ITを見据えた情報処理能力、高い経済意識、多職種との調整力を持つ人財の育成に務める。

【ディプロマ・ポリシー】

- 1. 世界の医療現場や研究で円滑なコミュニケーション、情報収集・発信を行うための語学力を有する。
- 2. 地域社会の健康福祉に貢献するための資質(問題点発掘、主体性、信頼、責任感、科学リテラシー、連携力)を有する。
- 3. 統合的医療(看護・医学・介護)の理解と、処方設計と解析、モニタリング、アセスメントを実践し、次世代型治療に主体的に参画する能力を有する。
- 4. 社会的ニーズから問題発掘し、研究を計画、遂行、発信することで問題解決する能力を有する。
- 5. 高度化する医療と多様化する患者ニーズに対応すべく、ITを有効活用する。
- 6. 医療保険制度の本質を理解し、変革する制度に対応できる柔軟な経済視点を有する。

図1 プロダクト(【教育研究上の目的】および【ディプロマポリシー】)

本内容をもとに、II グループの集合討論で発表を行った。フロアからの質問と回答の一部を以下に記し、本セッションの報告とする。

フロア:総合的医療の中の看護・医学・介護の順に意味はあるのか。

回答:特に意味はない。全てが同じように大事と思っている。

フロア:世界を意識された背景は。

回 答:次世代の薬剤師を意識した時に、国外でも活躍してほしいと考えた。また、国内 のグローバル化への対応も話し合われ、このようにまとめた。

フロア:目的の「薬の倫理」はどこに含まれるのか。

回 答:倫理は全ての基盤であり、倫理を持って行動することを考えているため、ポリシ ーの全てに含まれる。

フロア:第1回学生 WS において、岐阜薬科大学の学生が「医療経済をもっと大学で学びたかった」というスライドで示していた。目的に記載の経済意識などは、医療経済などを包括したもので良いか?

回 答:その通りで、保険制度や経営などを含め、現在に学んでいる内容よりもさらに高度な医療経済の知識などを身に付けることを意図している。

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

第二部のテーマである『6 年制課程の卒業時のアウトカムを考える』うえで、『次世代の6年制薬学教育に求められる社会からのニーズ』すなわち『次世代の薬剤師に求められるニーズ』を KJ 法により収集し、整理した。IIC 班では、43 のニーズが収集され、各ニーズの語るところを聞き、情報の整理をしたところ、12 個の島ができた(図 1)。班内の議論において、「地域と連携する」ことは、「患者の声を聞いて理解し、対応する力」「在宅訪問ができる」、「未病・予防に貢献できる」、「他職種を理解して多職種と連携する」「医薬品の提供および情報を精査できる」と名付けた島(ニーズ)を包括した大きな島(ニーズ)であると考え、島の中に島があるという特殊なまとめ方を行った。基礎学力や積極的な行動力、自分から発信する能力などは、あらゆるニーズの基本的な部分として重要であり、孤独なカードとして扱うこととなった。

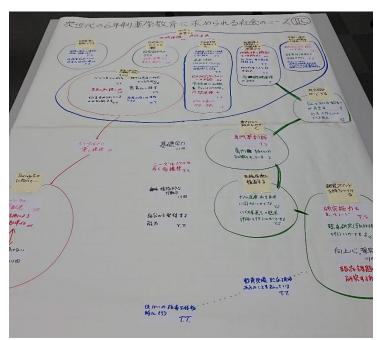


図1 KJ法により整理した次世代の6年制薬学教育に求められる社会のニーズ(II C班 セッション1後)

セッション2「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション 2 では、まず、セッション 1 の後に行われた厚生労働省薬事企画官の教育講演も踏まえ、1 つのニーズ(国民の政策を理解把握する能力)を追加した。また、処方設計ができる、専門的な能力をみがく、先端医療に精通する、研究マインドを持ちつづける、の 4 つの島について、それを包括する島の名前(「医療の質向上に貢献できる」)を付けた。その結果、KJ 法の最終的な成果物は図 2 に示したようになった。

次に、セッション 2 のテーマである『次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力』について、KJ 法の成果物にある島の名前から重要なニーズを抽出し、そのニーズを満たすための資質・能力を箇条書きすることとなった。図 2 にあるように、IIC 班では、特殊な島の作り方をしており、「地域と連携して、国民の QOL 向上に貢献する」と「医療の質向上に貢献できる」が大きな島として、いくつかの島を包括するようになっている。班内での議論において、これら 2 つの大きな島の名前こそが薬剤師に求められるニーズとして重要であると判断した(図 3)。続いて、大きな島が包括している小さな島の名前が、ニーズを満たすための資質・能力となっているとの意見があり、小さな島の名前を資質・能力として列挙した。なお、孤独なカードとしていた基礎学力や積極的な行動力、自分から発信する能力、国内の政策を理解する能力についても、ニーズを満たす能力として挙げた。

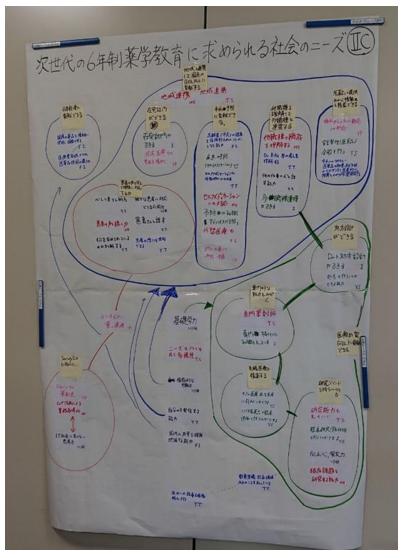


図2 KJ法により整理した次世代の6年制薬学教育に求められる社会のニーズ (II C班 最終プロダクト)

また、本ワークショップの全体のテーマである【次世代の】という観点が10年後の未来を想定することを踏まえ、班内では「日本経済に貢献できる」という点も重要なニーズではないか、との意見があった。このニーズを満たすための資質・能力については、KJ法の成果物に縛られず、【次世代の】という観点から議論を行った。10年後の未来では、現代の医療経済、保険制度の存続危機を考えると、よりセルフメディケーションが進んでいると考えた。また、セルフメディケーションを奨めるうえで、まずは国内の政策を理解することは重要であると考えた。さらに、【次世代の】薬剤師は、より進んだセルフメディケーションを奨めるうえで、より判断力を有する必要があると考え、資質・能力として挙げた。タスクからの助言もあり、10年後の未来では、薬剤師の判断は、医者の診断にも近い医学的知識に基づくものになっていると想定し、図3のような資質・能力の記載となった。

最後に、ここまでにまとめたニーズとそれを満たすための資質・能力から、「教育上の目的」を文章化することとなっていたが、残された時間が少なく、これまでの議論を簡単にまとめることとした。教育研究上の目的は、薬剤師法第 1 条に明文化されている薬剤師の任務条文と同じく「国民の健康な生活を確保できる」こととした。また、その目的に向けて教育研究で学ぶべきことについては、ニーズとして書き出した「地域と連携して国民のQOL向上に貢献する」「日本経済に貢献できる」「医療の質向上に貢献する」の3点を盛り込んだ。これだけでは、【次世代の】という観点が不足しているのではないか、という意見もあり、時間もない中であったため、「社会情勢を把握する」を追加し、図 3 に示すとおり、教育研究上の目的は、《社会情勢を把握し、地域と連携した国民のQOL向上、医療の質向上、日本経済に貢献することによって国民の健康な生活を確保できる薬剤師を育成する》とした。

次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力と「教育研究上の目的」

Ⅱ一C班

KJの島の名札	資質·能力
地域と連携して国 民のQOL向上に貢献する	・積極的な行動力 ・自分から発信する能力 ・国内の政策を理解する ・他職種を理解して多職種と連携する。 ・医薬品の提供および情報を提供できる。 ・未病予防に貢献できる ・在宅訪問できる ・患者の声を理解し対応する能力
日本経済に貢献できる	・国内の政策を理解する・セルフメディケーションをすすめる・判断力(医学的知識に基づく)
医療の質向上に貢献する	・処方設計ができる・専門的な能力をみがく・先端医療に精通する・研究マインドを持ち続ける・基礎学力

教育研究上の目的を文章化

社会情勢を把握し、地域と連携した国民のQOL向上、医療の質向上、日本経済に貢献することによって国民の健康な生活を確保できる薬剤師を育成する。

図3 次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力(IIC班)

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

このセッションではセッション 2 で設定した教育研究上の目的である「社会情勢を把握し、地域と連携した国民の QOL 向上、医療の質向上、日本経済に貢献することによって国民の健康な生活を確保できる薬剤師を育成する」に対するディプロマポリシー (DP) を作成した。

目的を達成する DP を作成するために、KJ 法で抽出した島のうち、次世代の薬剤師が持つべき能力を参考に、以下をキーワードとするパフォーマンスを考えることとした:①専門知識・先端医療の情報収集と情報発信、②科学的・論理的思考と PDCA サイクル、③患者・地域住民に対する医学的判断、④研究能力・研究マインド、⑤社会情勢・医療経済への理解。

まず、KJの島の中から、「医療の質向上に貢献する」に着目した。現在の薬剤師には専門的な能力と先端医療に精通する能力が求められている。次世代の薬剤師にはこれらに加え

て、最新の情報を、薬学的視点から継続的に収集・整理・解析すること、そして患者や他の医療従事者へ自ら的確に情報発信する能力が必要であると意見が出た。以上より、一つ目のポリシーは「継続的に専門的な知識や先端医療の情報を収集・解析し、薬学的知見に基づいて判断し、患者・他の医療従事者等に対して的確に情報発信する」とした。

次に、次世代の薬剤師は、最新のエビデンスを把握すると共に、自ら臨床課題を見出し、科学的・論理的思考に基づく PDCA サイクルを実行できる能力が必要であると意見が出た。以上より、二つ目のポリシーは「グローバルな基礎的および臨床的研究の最新知見を通じて、自ら課題を見出し、科学的・論理的思考に基づいた健康な生活を確保するための計画・実行・検証・行動(PDCA サイクル)を行う」とした。

次世代の薬剤師(主として薬局薬剤師)は、患者だけでなく地域住民の健康の確保に貢献することが必要である。薬剤師が健診等を行い、患者および地域住民の健康状態を把握すること、そして、血液検査などを実施し、その結果について医師の診断に近い医学的判断を行い、結果に基づいて受診勧奨やセルフメディケーションを推進できる能力が必要であるという意見が出た。こられを踏まえ、三つ目のポリシーは「患者・地域住民の健康状態および生活背景を把握した上で、医学的判断により、受診勧奨・セルフメディケーションを的確に提案する」とした。

さらに、次世代の薬剤師は、研究能力・研究マインド(基礎・臨床分け隔でなく)を高めることが重要である。二つ目のポリシーに紐付く内容ではあるが、基礎学力を高め、向上心・探究心を持ち、研究を自らが組み立て・実行する。そして、その結果を発信する能力が必要であるという意見が出た。そこで、四つ目のポリシーは、「基礎と臨床の融合研究(トランスレーショナルリサーチ)を基盤とした思考プロセスを生かして研究を立案・遂行し、発信する。」とした。

最後に教育研究上の目的に掲げたとおり、次世代の薬剤師には、社会情勢を把握しつつ、変化する医療経済・保険制度を理解し、対応する能力が求められると考えられる。医療経済学の科目については、現在の薬学教育では取り入れられていないが、今後は患者や地域住民の経済状況を把握し、医療経済的視点から個別化薬物療法を考えていくことが重要である。以上を踏まえて、五つ目のポリシーとして、「変化する社会情勢を把握し、医療経済的視点から個別に最適化された薬物療法を提案する」とした。

Ⅱ-C 班で設定した教育研究上の目的は、薬剤師法第 1 条と類似するが、次世代の薬剤師が「国民の健康な生活を確保する」ためには、従前の視点にとらわれない能力を有することが必要であると考えられた。

【教育研究上の目的】:社会情勢を把握し、地域と連携した国民のQOL向上、医療の質向上、日本経済に貢献することによって国民の健康な生活を確保できる薬剤師を育成する。

【ディプロマ・ポリシー】パフォーマンスとして記載

- 1. 継続的に専門的な知識や先端医療の情報を収集・解析し、薬学的知見に基づいて判断し、患者・他の医療従事者等に対して的確に情報発信する。
- 2. グローバルな基礎的および臨床的研究の最新知見を通じて、自ら課題を見出し、科学的・論理的思考に基づいた健康な生活を確保するための計画・実行・検証・行動(PDCAサイクル)を行う。
- 3. 患者・地域住民の健康状態および生活背景を把握した上で、医学的判断により、受診勧奨・セルフメディケーションを的確に提案する。
- 4. 基礎と臨床の融合研究(トランスレーショナルリサーチ)を基盤とした思考プロセスを生かして研究を立案・遂行し、発信する。
- 5. 変化する社会情勢を把握し、医療経済的視点から個別に最適化された 薬物療法を提案する。

図:ディプロマポリシー(IIC 班プロダクト)

III A 班

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

セッション1では、「次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズは?」をテーマに KJ 法を用いたスモールグループディスカッションが行われた。このセッション1の内容は次のセッション2においても引き続き議論されることから、このセッションでの最終目的を、 "得られたニーズの情報を整理した後、島の名札をつけること"とし、まず、先のテーマに関連するニーズをメンバーそれぞれが書き出した。ニーズの書き出しにおいては、"次世代"というキーワードを強く意識しながら書き出すようにした。46 個(概ね一人5個)のニーズが集まり、これらのニーズーつ一つの語るところをもとに情報整理が行われ、最終的に8つの島がつくられた。それぞれの島において共通する事項(下線)をもとに島の名札が決定された。決定された島の名札と各島に属するニーズを以下に示す。

島A:個々の患者に寄り添って対応できる薬剤師(より一層!!)(10カード)

<u>患者の感情を感じる力、患者(の意志)を支援できる</u>薬剤師、慢性疾患に対する薬物療法への積極的関与(処方権までいかないが。。)、<u>(高齢)患者の話し相手になる</u>薬剤師、<u>わかりやすい</u>服薬指導、<u>コミュニケーション</u>能力、<u>接遇</u>能力、<u>コミュニケーション</u>できる薬剤師、<u>患者の不安を軽くしてあげる</u>薬剤師、<u>患者に寄り添える</u>薬剤師。

島 B: 次世代の薬学教育を担える能力を持つ薬剤師(8カード)

基礎研究への理解、大学と連携した研究、<u>薬剤師会や研究機関との連携</u>、プレゼン能力、<u>薬学教育を担える</u>能力、<u>研究マインド</u>を持つ、<u>臨床現場からの研究テーマの抽出、</u> <u>卒後の自己研鑽</u>。

島 C: 多様化する社会に対応する能力(超高齢社会を支える薬剤師)(8 カード)

<u>未病</u>の方への関与、<u>予防</u>に関する情報提供、<u>超高齢社会</u>への対応、<u>健康維持や増進の</u> <u>方策を教えてくれる</u>、<u>健康寿命延伸</u>のサポート、<u>健康サポート</u>、<u>健康に対する悩みや</u> <u>不安を気楽に話せてアドバイスしてもらえる</u>、<u>多様性</u>の許容。

島 <u>D</u>:より地域に根ざした薬剤師(7カード)

学校における環境管理、公衆衛生への積極的関与、<u>地域への密着</u>、<u>地域の方に頼りにされる</u>薬剤師、<u>地域のコミュニティ</u>への教育、<u>地域への貢献</u>、<u>地域の病気</u>に対する疫学的知識。

島<u>E</u>:他職種を理解しながら積極的に連携できる薬剤師(3カード) 医師と違う専門性で意見を言える能力、医療スタッフとの密な連携、他職との連携。

島 $\underline{\mathbf{F}}$: 薬剤師の中で専門分野を持った薬剤師(4 カード)

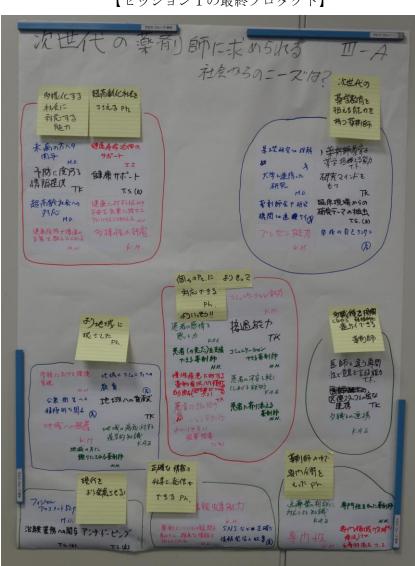
<u>医療費の相談に対応できる</u>知識、<u>専門性、専門性を持った</u>薬剤師、<u>専門領域</u>での主導的関与。

島 G:正確な情報の収集と発信ができる薬剤師(3カード)

薬剤について<u>疑問を尋ねたら確実な情報を伝えてくれる</u>、SNS など<u>正確な情報発信と収集、情報収集</u>能力。

島H: 現行をより発展させる (3 カード)

フィジカルアセスメント能力、アンチ・ドーピング、治験業務への関与。



【セッション1の最終プロダクト】

セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション2での最終目的は、セッション1で集約されたニーズを満たすための資質・ 能力を箇条書きにし、そこから教育研究上の目的を文章化することである。議論に先立っ て、前日に行われた安川先生の教育講演や夜のフリーディスカッション、全国学生ワーク ショップで学生がディスカッションしたニーズを参考に、セッション1で作成された島の 名札の変更・追加も可能であることがタスクフォースから追加説明された。セッション1 で集約されたニーズを満たすための資質・能力を書き出すにあたっては、ニーズが多かっ たものほど次世代の薬剤師に求められるニーズを満たす資質・能力として重要度が高いと いう共通認識をもった。一番ニーズの多かった島A「個々の患者に寄り添って対応できる薬 剤師 (より一層!!)」に関しては、上記下線部のほか、「他者を理解する・容認する能力」 や「協調性」、薬を足していく医師とは違い逆に薬を引いていく(残薬を減らす)観点から の「薬<u>離</u>学」に関連する資質・能力も必要と考え、これらも資質・能力として新たに追加 された。また、島 C「多様化する社会に対応する能力(超高齢社会を支える薬剤師)」につ いては、多様化する社会(超高齢社会、国際化社会、地域、災害時)として纏めることで、 島D「より地域に根ざした薬剤師」や、島G「正確な情報の収集と発信ができる薬剤師」も 包括できるとの結論に達した。さらに、"次世代"をキーワードとして意識しながら議論を 進めたところ、「多様な社会と他者に対する理解に富む人間力(差別、許容、倫理観、人と して)」と纏められた能力が新たに追加された。島 C, F については、元の島の名札で資質・ 能力が表現されているためこれ以上手を加えずそのままの表現を用いた。なお、島 H につ いては、もともと孤独なカードの集まりであったためさらなる議論を行わなかった。最後 に、新たな島の名札をつなぎ合わせて、「教育研究上の目的」は、「次世代の多様化する社 会(超高齢社会、国際化社会、地域、災害時)に専門性を持って積極的に対応できる人間 <u>力</u>(コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップ)を身につけ、そのために必要な 自己研鑽能力や<u>研究マインド</u>を育み、醸成させることで、社会のニーズに応える薬剤師を 育成する。」と文章化された。セッション2の最終プロダクトを以下に示す。

【セッション2の最終プロダクト】

KJの島の名札	資質・能力
患者に寄り添って、よ	感情を感じる力、コミュニケーション能力、接遇能力、
り一層対応できる薬剤	患者支援、薬物療法の積極的関与、処方支援(権?)、
師	他者を理解する・容認する能力、協調性、薬 <u>離</u> 学
次世代の薬学教育を担	研究マインド、協調性
える能力を持つ薬剤師	
多様化する社会	適応力、多様な社会と他者に対する理解に富む人間力
-超高齢社会、国際化社	(差別、許容、倫理観、人として)、情報収集・発信能
会、地域、災害時-	カ
多職種連携	他者を理解する・容認する能力、協調性、薬剤師と専
	門性を発揮できる能力
専門分野を持った薬剤	制度に特化した知識、自己研鑽能力・意欲
師	

【教育研究上の目的】

次世代の多様化する社会(超高齢社会、国際化社会、地域、災害時)に専門性を持って積極的に対応できる人間力(コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップ)を身につけ、そのために必要な自己研鑽能力や研究マインドを育み、醸成させることで、社会のニーズに応える薬剤師を育成する。

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

第二部セッション3では、第二部セッション1・2で挙げられた「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」というテーマに基づいて作成したプロダクトに対して、ディプロマポリシー(DP)の作成を行った。教育研究上の目的として、「次世代の多様化する社会(超高齢社会,国際化社会,地域,災害時)に、専門性を持って積極的に対応できる人間力(コミュニケーション能力,協調性,リーダーシップ)を身につけ、そのために必要な自己研鑽能力や研究マインドを育み、醸成させることで、社会のニーズに応える薬剤師を育成する」を掲げた。「次世代」ということをベースにおいて、「人間力」、「専門性」、「卒業研究までどこまでできるか」をキーワードとして挙げ、議論を進めていった。

- ・「人間力」: 社会情勢に関心を持ち、見据える力(超高齢社会、国際化社会、ジェンダー 等)
 - ①普遍的な人間力:多様化する社会情勢に興味・関心を持ち、社会に関わり、自ら考え、 積極的に行動する。
 - ②薬剤師としての人間力①:患者背景や患者の気持ちを理解し、個々の患者に応じて如何に対応するか考え対応できる

- ③薬剤師としての人間力②:他の医療職の内容を理解し、その立場を尊重し、協調性を 持って薬剤師として何ができるか立案・計画・提案できる。
- •「専門性」
 - ①自己研鑽能を育む
 - ②患者個々に応じた薬物治療
 - ③多職種の業務内容・立場の理解し、薬剤師として何が出来るかを考え自ら行動することができる。
- ・「卒業研究までどこまでできるか」
 - ①研究や臨床に興味を持って、積極的に取り組み、問題を見出し、解決し、自己研鑽で きる決断能力を育む。
 - ②薬物治療に関する基本的知識を持ち、患者個々に応じた治療提案ができるように自ら 考え行動することができる。
 - ③協調性

上記のような意見を挙げ、III-A 班では DP を作成していった。

- ・普遍的な人間力ということで、「多様化する社会情勢に興味・関心を持ち、社会に関わり、 自ら考え積極的に行動することで国民生活を豊かにする。」
- ・薬剤師としての人間力として、「患者・生活者の背景や気持ちを理解し、個々に応じて何をすべきか考え対応することで、国民全体の QOL を向上させる。」
- ・薬剤師としての専門性①として、「他の医療職の内容を理解しその立場を尊重し、協調性 を持って薬剤師として何ができるかを常に考え積極的に行動することで、チーム医療の 質を向上させる。」
- ・薬剤師としての専門性②として、「現在の常識にとらわれず臨床に興味を持って自ら積極 的に取り組み、問題を見出し、解決に向けて研究することで、次世代の社会に還元する。」
- ・薬剤師としての専門性③として、「薬物治療に関する基本的知識を持ち患者個々に応じた 治療提案ができるように自ら考え行動することで、個別医療の質を向上させる。」という 形で議論を進めていった。

「次世代」ということを意識した DP 作成を心掛けていき、具体的に 5 つの項目でスライドにまとめたものをⅢチーム内で発表を行った。

第二部 セッション3 Ⅲ A班

【教育研究上の目的】:次世代の多様化する社会(超高齢社会,国際化社会,地域,災害時) に,専門性を持って積極的に対応できる人間力(コミュニケーション能力,協調性,リーダーシップ)を身につけ、そのために必要な自己研鑚能力や研究マインドを育み, 醸成させることで、社会のエーズに応える薬剤師を育成する

【ディプロマ・ポリシー】パフォーマンスとして記載

- 1. 多様化する社会情勢に興味・関心を持ち、社会に関わり、自ら考え積極的に行動することができる
- 2. 患者背景や患者の気持ちを理解し、個々の患者に応じて何をすべきか考え対応できる
- 3. 他の医療職の内容を理解しその立場を尊重し、協調性を持って薬剤師として何 ができるか立案・計画・提案できる
- 4. 現在の常識にとらわれず臨床に興味を持って自ら積極的に取り組み、問題を見出し、解決に向けて研究することができる
- 薬物治療に関する基本的知識を持ち患者個々に応じた治療提案ができるように 自ら考え行動することができる

発表後の質疑応答でタスクフォースの方々に、ご意見をいただいた項目について修正したものを、最終プロダクトとして以下に示す。

【セッション3の最終プロダクト】

第二部 セッション3 Ⅲ A班

【教育研究上の目的】:次世代の多様化する社会(超高齢社会,国際化社会,地域,災害時) に,専門性を持って積極的に対応できる人間力(コミュニケーション能力,協調性,リーダーシップ)を身につけ、そのために必要な自己研鑚能力や研究マインドを育み, 醸成させることで,社会のニーズに応える薬剤師を育成する

【ディブロマ・ポリシー】パフォーマンスとして記載

- 1. 多様化する社会情勢に興味・関心を持ち、社会に関わり、自ら考え積極的に行動することで国民生活を豊かにする
- 2. 患者・生活者の背景や気持ちを理解し、個々に応じて何をすべきか考え対応することで、 国民全体のQOLを向上させる
- 他の医療職の内容を理解しその立場を尊重し、協調性を持って薬剤がたして何ができる かを常に考え積極的に行動することで、チーム医療の質を向上させる
- 現在の常識にどうわれず臨床に興味を持って自ら積極的に取り組み、問題を見出し、解決に向けて研究することで、次世代の社会に還元する
- 5. 薬物治療に関する基本的知識を持ち患者個々に応じた治療提案ができるように自ら考え 行動することで、個別医療の質を向上させる

3

ⅢB班

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

第一部では、Ⅲチーム(A・B・C 合同)で「薬学教育に求められる質保証」をメインテーマとして World Café 形式により「次世代の薬剤師像を語ろう」、「10 の資質を踏まえて、学生の現状はどうでしょうか?」、「自大学の質保証の現状についてどう思いますか?」の 3 ラウンドを行い、意見を出し合った。

第二部では、チームIIIが3つ(A・B・C)の班に分かれた。第一部のWorld Cafe 形式での意見交換ラウンドが記憶から消える前のこのタイミングで、「6年制課程の卒業時のアウトカムを考える」をメインテーマとし、「次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズは?」、そして、「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」を各セッションの共通テーマとして各班で議論した。ファシリテーターからは、「第一部の教育講演1を聞いて次世代の6年制薬学部教育に求められる社会からのニーズが見えてきましたか?」との問いかけと共に、「薬学部6年制課程の卒業時のアウトカムを考えるうえで次世代の6年制薬学教育に求められる社会からのニーズ、すなわち、次世代の薬剤師に求められるニーズを考え、意見を出し合い、それらを整理し、共有しましょう」と第二部での作業を促された。ワークショップの形式は、アウトプットの質を高める方法の一つで、イメージングされた事柄を要約して情報(文字)化し、情報整理と統合によって新たに見えてきた発想を可視化(名札付け)する川喜田二郎(KJ)法が用いられた。

各班には3枚の短冊シールが一綴りになった用紙が用意され、先ず、グループ各メンバーが議題にフィットすると思う事柄を思い思いに最上段の短冊部分に記入し、引き続き異なるメンバー員が次段、また異なるメンバー員が最下段に記入する形で各短冊部分へ記入が行われた。三段ともに記入された用紙が18枚できあがった。メンバー全員で各用紙の短冊を切り離した(短冊は合計で54枚)後、短冊に記載された情報を読み上げ、各短冊が語る本質部分を考慮しながら類似、または、関連性のある短冊を模造紙(788×1091 mm の模造紙2枚の長辺同士を連結させた模造紙)上にグループ(島)として配置する作業を行った(図1)。短冊の整理(配置)、島形成の過程において、メンバー全員が直ちに同意する短冊が大部分であった一方で、少数ではあるが、何れの島の短冊に類似性、関連性を有するのかの判断に迷う短冊もあった(表1)。それらの短冊については、記入者に意味合いの説明を求め、説明された内容から、存在する島へ含めるのか、あるいは、独立した島にするのかの判断を行い、最後には、その判断に至る過程で短冊が語る本質部分の理解について誤りがないことを記入者に再確認した後、短冊の立ち位置を決定した。

表1 情報の整理・統合段階で説明された7枚の短冊

島の作製時に相談された短冊

- 1) お金を支払っても良い人
- 5) 教育者としての薬剤師

2) リカバリーカ

- 6) ただの辞書にならない
- 3) 医療費の抑制に貢献できる
- 7) 考察できる
- 4) 他分野の人とコミュニケーションをとり、新しいことを立ち上げる力

表1に示された7枚の短冊のうち、「お金を支払っても良い人」には、信頼のもとに提供された高質なサービスへの対価として自身が支払いを許せる相手(薬剤師)、「教育者としての薬剤師」には、活躍場所を教育機関に特定せず、あらゆる場所において良き医療人を育成できる教育者、「医療費抑制に貢献できる薬剤師」には単なるリテラシーが発揮された結果ではなく、医療界を含む社会全体を広い視野で捉え、移り変わる時代背景(society 5.0)に適したマネージメント力も兼ね備えた薬剤師、「他分野の人とコミュニケーションをとり、新しいことを立ち上げる力」には、現状の改良による新たな分野の開拓が含まれるが、連携をうまく機能させ、新しい視点から新分野を開拓する(そのマネージメント力まで含めて)という多要素のニーズが含まれていることから、これら短冊は単独の島として他の島と区別された。

形成された島は、全部で13島あった。島に含まれる短冊から共通して発想されることを文字化して各島の名札付けを行い、セッション1のプロダクトとされた(図1)。プロダクトの図1は、掲載サイズに制限がある関係から文字の判読が困難な所もあるので、島の名前と短冊の記載内容を表2として別に示した。

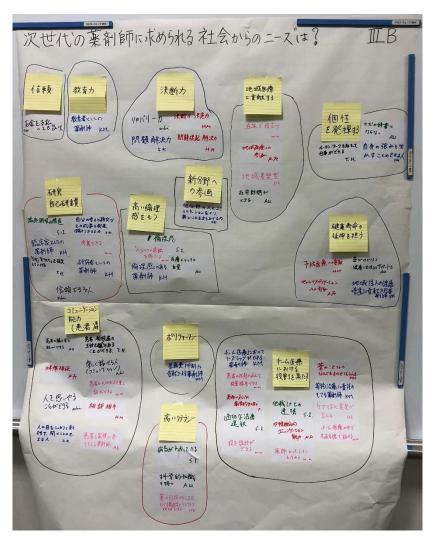


図1 次世代の薬剤師に求められるニーズ (KJ 法による整理と統合)

表2 KJ法で作製された島の名札と各島に含まれる情報

島の名札	短冊 (情報)	島の名札	短冊 (情報)
高い倫理観を持つ	▶倫理観	個性を発揮する	▶ただの辞書になら
	▶「人」としての常		ない
	識を持っている		▶ルーチンワークを
	▶医療人としての自		超えて仕事ができ
	覚		る
	▶倫理観のある薬剤		▶自身の強みを生か
	師		すことのできる人
健康寿命の延伸	▶予防医療への貢献	自己研鑽(研究)	▶臨床研究の推進
	▶薬だけでなく、健		▶自分の考えや研究
	康(生活)のサポ		などの成果を発表
	ート		(論文) できる力
	▶セルフメディケー		▶臨床家としての薬
	ションへの寄与		剤師

			サウィンフ
	▶地域住人の健康増		▶考察できる
	進に貢献できる薬		▶「なぜ」、「どうして」
	剤師		を探求していける
			▶研究者としての薬
			剤師
			▶信頼できる人
チーム医療におけ	▶チーム医療におい	コミュニケーション	▶患者の顔を見て話
る役割を果たす	てリーダーシップ	能力(患者・家族)	ができる
	がとれる薬剤師		▶人の目を見てしっ
	▶薬のことなら何で		かりと話す・聞くこ
	も任せてもらえる		とのできる人
	▶患者の状態に応じ		▶患者・相談者の主訴
	て投薬提案できる		を汲み取ることが
	▶薬物治療に責任の		できる
	持てる薬剤師		▶健康相談
	▶患者に応じた薬学		▶楽しく話せる人(コ
	的知識		ミュニケーション)
	▶他職種との連携		▶患者にもわかる言
	▶ケアマネに意見が		葉で話ができる
	・		▶人を思いやること
	▶適切な治療選択		ができる
	▶他職種とのコミュ		●相談相手
	ニケーション能力		▶患者と家族に寄り
	▶チーム医療の中で		添える薬剤師
	共通言語で話せる		
	▶投与設計ができる		
	▶医師のパートナー		
	となれる		
新分野への参画	▶他分野の人とコミ	ポリファーマシー	▶医療費抑制に貢献
	ュニケーションを		できる薬剤師
	取り、新しいこと		前ページの表2の続き
	を立ち上げる力		削べークの衣との旅さ
信頼	▶お金を支払っても	教育力	▶教育者としての薬
	良い人		剤師
决断力	▶リカバリー力	地域医療に貢献する	▶在宅で役立つ
	▶決断力・決定力		▶地域医療への参画
	▶問題解決力		▶地域基盤型
	▶問題提起・解決力		▶在宅訪問ができる
高いリテラシー	▶病気が分かってい		
	- → - →科学的知識を持つ		
	▶薬の作用メカニズ		
	ムが構造式とリン		
	クして説明できる		
	/ して就切じさる		

セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

セッション2ではニーズ(KJ 法の島の名札)を参考にして、島に付けられた名札が言う ところの「次世代の薬剤師に求められるニーズ」を満たすために必要な資質・能力が挙げ られ、箇条書きにされた。前セッションにおいて、54 枚の短冊が無秩序に並べられた時点 では、各短冊と次世代薬剤師に求められるニーズとの間に漠然とした関連性がイメージさ れるレベルであり、"現在の薬剤師にも求められているニーズではあるが、その要求が十 分に満たされていない"、あるいは、第4次産業革命、Society 5.0、そして、人生 100 年 時代への社会変遷に平行するかたちで薬剤師を取り巻く環境の変化が考えられ、"これか らの薬剤師に対して益々高まるであろうニーズ"という認識レベルであった(表3)。しか しながら、短冊の整理と島への名札付与が進むと、各島の関連性が次第に明確となり、そ れまでは見えにくかった薬剤師の新たな活躍領域まで見えてきた。これを次世代の薬剤師 の活躍すべき場の一つと捉え、そのスタート地点に立つにふさわしい薬学士を薬学部で養 成するとの意識目線から、学士育成現場となる薬学部におけるゴール、薬学卒業時を想定 し、思い描かれる薬学士像が挙げられた。次世代薬剤師が求められるニーズに応える姿を 想像したとき、時間軸を遡ったところに薬学部の卒業がある。従って、薬学部の卒業は薬 学部生から見ると、一つのゴールとも見ることができるが、薬剤師としてのスタート地点 でもあるとともに、次世代薬剤師が振り返った時の同一軸上の通過点でもある。この点に ついては、教育講演1と2を拝聴した直後ということもあり、班員の言い方に違いはあっ ても同一意見であった。

薬学士として卒業した後の薬剤師としての生涯の活躍をイメージし、通過点である薬学部の卒業に向けて掲げるべき目標を考え、意見を出し合った。次世代というキーワードを意識しながらの意見には「健康寿命の延伸、地域医療への貢献」に班員の意識が向いている傾向にあり、出された意見に関連する島の名札、そして、短冊に書かれたことを参考にして挙げられた資質・能力を取り上げ、通過点であることと薬学部での一ゴールとの見方から教育研究上の目標を文章化した(表 3)。

チームⅢの A、B、C 班がセッション 1・2 のプロダクトを持ち寄り、5 分間の各班の持ち時間を使って各プロダクトを説明し、発表終了後に 10 分間の総合討論が行われた。我々Ⅲ B 班からの発表に対しても他班から幾つかの質問をいただいた。以下に質問と回答を示す。「決断力」に関してⅢB 班として具体的にどのような意見が出たのか?との質問に対しては、次世代の薬剤師に求められるニーズという点において KJ 法で挙がってきた他の複数の島の名札に関連性があり、責任ある「決断力」は、他の島の名札(ニーズ)を満たすうえでは必須だとする意見で一致していたことを紹介した。また、ニーズと資質・能力との繋がりに関しては、選択肢が提示されている場合に適切に選択をして決定する力、覚悟が必要であるとの具体的な意見が出され、これらの意見を考え合わせて「決断力」の名札を表現すると、次世代の薬剤師は、深化(複雑化)する医療戦略において最良医療を提供するため、専門知識を持ち合わせたうえで薬学専門家として責任ある決断力と覚悟を持って、提案や

助言をする立場でなければならないとの意見で一致したと、班内での話し合いの状況を説明、回答した。また、「決断力」の島に含まれた他のニーズにはどのような短冊が含まれていて、どのような議論が出たか?との質問には、「決断力」の島に含まれる短冊として、リカバリー力、問題提起、解決力、決定力が挙げられ、薬剤師としての職務を遂行する上で、状況に応じた決断力は欠かすことのできない資質や能力であること、そして、専門職としての強い責任感を持って望むべきだとする議論があったと回答した。次に、専門職としての責任感、心構えの部分にはどのようなものが挙がりましたか?との質問に対しては、薬剤師としてのプロ意識、プロフェショナリズムを持つ必要性について議論があったことが伝えられた。また、他業種とのコミュニケーションを取るなどの意見はありましたか?との質問に対しては、薬剤師以外の他職種の方々とのコミュニケーションは、班内で非常に重要であるとの認識で一致したこと、また、このコミュニケーションが「相互の信頼」、「連携」にも不可欠であるばかりではなく、連携から生まれる多様な意見を基に、これまでにない新たなサービスや事業を立ち上げるまでの力を持つことも、次世代の薬剤師には必要とされるのではないかという議論があったことが説明された。この発表・討論の後、表3を当班の第二部、セッション1・2の最終プロダクトとした。

表3 次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力と「教育研究上の目的」

KJ の島の名札	資質・能力
健康寿命の延伸	コミュニケーション能力、研究・自己研鑽能力、決断力、倫
地域医療への貢献	理観
コミュニケーション能力	患者・家族に寄り添える能力、情報収集発信・傾聴能力
決断力	薬の専門職としての責任感
研究・自己研鑽	高いリテラシー、問題提起・解決できるための能力
倫理観	人・医療人としての高い倫理観を有する

教育研究上の目的

高い倫理観を持ち、絶えず最新の情報を得るように自ら積極的に自己研鑽を積むことに よって、国民の健康と健康寿命の延伸と医療の発展に貢献することができる薬剤師を養 成する

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

第二部セッション 3 では、第二部セッション 2 で議論・作成した教育研究上の目的「高い倫理観をもち、たえず最新の情報を得るように自ら積極的に自己研鑽を積むことによって、国民の健康と健康寿命の延伸と医療の発展に貢献することができる薬剤師を養成する」に基づいてディプロマポリシーの作成の為の議論がスタートした。

薬剤師は患者・家族に対応するとき生と死を避けて通れない。そこで、患者・家族がそ

れぞれ持っている生命感・死生観を理解する必要があることから、多様な生命感を理解する必要性が出された。これに加え、高い倫理観を持って行動する必要があることから、続けて倫理について議論した。KJ法で得られた倫理についての島には「人・医療人としての高い倫理観を有する」能力が必要としたが、これは具体性に欠けており、具体化する為の議論を行った。倫理には、教育倫理、研究倫理、法令倫理など、様々な行為に合わせた倫理がある。また、倫理は道徳とほぼ同義であるが、少し違うのではないかとの意見が出された。例えば、患者の意思と家族の意思が異なった場合、薬剤師として何を優先すべきか、道徳的な行為と医療現場における医療倫理に基づく行為とは違う例が示された。これらの議論をもとに、一つ目のディプロマポリシーは「多様な生命観および教育・研究・法令に関する倫理を理解した上で患者や相談者に応じた行動をとる」に決定した。

次に、教育研究上の目的にある「国民の健康と健康寿命の延伸と医療の発展に貢献する」に注目した。KJ 法で抽出した島の名札は「健康寿命の延伸・地域医療への貢献」であり、これに必要な資質・能力は「コミュニケーション能力、研究・自己研鑽能力、決断力、倫理観」である。また、KJ 法のプロダクトでは「コミュニケーション能力」の島があり、必要な能力の一つとして「情報収集発信」が挙げられていた。特に次世代の薬剤師には情報発信の一つとしてエビデンスを創出し、発表するという情報発信によって医療の発展に貢献することが求められるとし、さらに他職種と連携し情報収集発信を行う事で医療チームの一員としての責任を果たす必要があることで一致した。これらの議論をもとに、二つ目のディプロマポリシーは「問題を積極的に抽出し、それに対して情報を集め解析・評価した上で他職種と連携して問題解決をはかる。また、解決法を自ら立案・実行し、エビデンスを創出する」に決定した。

さらに、KJ 法で得られた「コミュニケーション能力」という島には、必要な能力の一つとして「患者・家族に寄り添える能力、傾聴能力」が挙げられていた。国民の健康と健康寿命の延伸・地域医療への貢献には、患者、家族、相談者の意見を傾聴できることが最初のステップである。しかしながら、他者の意見を聞き、会話できるだけでは本当のコミュニケーションでは無いとの意見が挙がった。本来、患者・家族との会話は、治療や健康増進のための行動を行う為であり、そのために患者や家族の背景や心情を理解した行動ができる必要がある。そこで、三つ目のディプロマポリシーは「健康維持や治療・医療の発展のために、患者、家族、相談者の意見に傾聴し、心情・背景を理解したコミュニケーションを行う」に決定した。

最後に、次世代の薬剤師と現状の薬剤師との違いを考えたとき、現状は薬物治療において目の前の患者さんに適した薬物治療を選択しているだけにとどまっていることが多い。そこで、10年後の次世代の薬剤師は、薬の専門職としての責任感・心構え・覚悟を持って、薬物治療の決定を行えるようになる必要があるとの意見が出された。これは KJ 法の島の「決断力」に含まれている内容である。その為には、「問題提起・解決できるための能力」を有する必要があり、さらに最新の知識・根拠を手に入れるように常に自己研鑽を積む必

要がある。そこで、四つ目のディプロマポリシーは「患者の背景を理解し、常に最新の薬学的知識・根拠に基づいて患者に適した薬物治療を責任を持って決定し提案できる」に決定した。

以上の議論を経て、発表時のディプロマポリシーは以下の通りとなった。

第2部セッション3

ⅢB班

【教育研究上の目的】: 高い倫理観をもち、たえず最新の情報を得るように自ら積極的に自己研鑽を積むことによって、国民の健康と健康寿命の延伸と医療の発展に貢献することができる薬剤師を養成する

【ディプロマ・ポリシー】パフォーマンスとして記載

- 1. 多様な生命観および教育・研究・法令に関する倫理を理解した上で患者や相談者に 応じた行動をとる。
- 2. 問題を積極的に抽出し、それに対して情報を集め解析・評価した上で他職種と連携して問題解決をはかる。また、解決法を自ら立案・実行し、エビデンスを創出する。
- 3. 健康維持や治療・医療の発展のために、患者、家族、相談者の意見に傾聴し、心情・背景を理解したコミュニケーションを行う。
- 4. 患者の背景を理解し、常に最新の薬学的知識・根拠に基づいて患者に適した薬物 治療を責任を持って決定し提案できる。

1

発表の質疑において、教育研究上の目的の「国民」という語句と、ディプロマポリシーの「患者と相談者」が一致しないのではないかとの指摘があった。そこで、1に含まれる「患者や相談者」と3に含まれる「患者、家族」という表現は、いずれも「患者や住民」に変更した。また、2の「エビデンスの創出」は、未解決の問題から得られるものである事から、「未解決の問題に対して」を追加することにした。

セッション1「6年制過程の薬学教育に対して社会から求められるニーズは?」

第2部セッション1では、「次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズは?」について、KJ 法によるニーズの抽出を行った後、そのニーズをもとに求められる資質・能力を検討した。

KJ 法では、【臨床研究の実践】、【臨床現場へのフィードバック】、【臨床での問題解決】、 【発信】、【情報収集】、【連携】、【AI 活用】、【薬剤師アイデンティティー】、【人間カマインド】、【地域包括ケアの実践】、【社会体制の構築】、【次世代育成】が島の名札として抽出され、さらに、孤独なカードとしては、[コスト管理]、[違法薬物の流出防止]、[国際的な公衆衛生]、[基礎薬学の高度臨床応用]が挙げられた(図 1)。

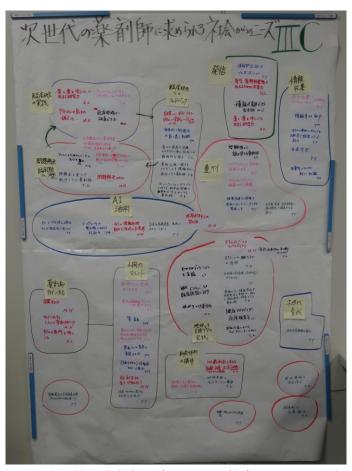


図 1 次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズ

結論としては、薬剤師としてのアイデンティティー(プロフェッショナリズム)や人間 カマインドを基盤として、特に臨床現場での課題解決において AI を活用した情報検索技術 の活用や基礎・臨床研究による新規エビデンスの創出、地域包括ケアシステムにおけるチ ーム医療のさらなる推進、健康領域を含むカウンセリング能力の強化、社会情勢を考慮し た新規体制の構築 (イノベーション)、さらに、これらの職能を発揮できる後進の育成が重要であるとの結論に至った。

セッション2 「次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力は?」

次世代の薬剤師に求められるニーズとして挙げられた島の名札に対して、ニーズを満た すための資質・能力を検討した(図 2)。

KJの島の名札	資質・能力
臨床研究の実践	クリニカルクエスチョンにもとづきリサーチクエスチョンを 立てて研究を実践する能力
臨床現場へのフィー ドバック	研究成果を具体化して現場で使えるようにする能力
臨床での問題解決	患者が抱える多様な問題点を解決する能力
発信	多様な受手に対して適切な形で情報を伝える能力
情報収集	継続して適切な情報を収集する能力
連携	他職種とのネットワークを最適化して協働する
A I 活用	A I で業務を効率化する
薬剤師アイデンティ ティー	薬剤師として専問性を常に磨きプロ意識を持って業務に臨む
人間力マインド	他者・自己とも尊重する
地域包括ケアの実践	薬剤師の裁量に基づき地域の福祉医療に貢献する
社会体制の構築	社会体制・社会機能を改善する能力
次世代育成	次世代の人材を育成する能力

図2次世代の薬剤師に求められるニーズを満たすための資質・能力

結論として、本質的な資質・能力としては、多様な人々が抱える真の問題点を把握するために協力関係を構築する能力、課題解決のための研究・情報検索能力が重要であり、特に両者のバランスが適切かつ密接に関与することが重要との結論に至った。

以上の議論を経て、我々の班では、教育研究上の目的は、「薬剤師アイデンティティーと 相互尊重に基づいて社会福祉・地域医療において問題解決を通じて国民の健康に貢献する 薬剤師を養成する」となった。

セッション3 「ディプロマポリシーを作ろう」

第二部セッション1・2で議論した、次世代の薬剤師に求められる社会からのニーズを満たすための資質・能力と「教育研究上の目的」に基づき、セッション3ではディプロマポリシー(DP)を作成した。「教育研究上の目的」を果たすために学生が何をできるように

なればよいか、そのパフォーマンスを具体化する議論であった。

まずは「問題解決能力」に焦点が置かれた。問題解決といっても大まかに2種類あり、既 知の症例・事案に対して情報を活用し解決する、といった能力と、未知の症例・事案に対し て研究をすることで将来の解決をはかる、といった能力があるという意見が出た。前者は現 在すでに実施されていることであり、もちろん将来の薬剤師にとっても重要であるが、AI 等 を活用すれば現在よりもさらに効率的かつ効果的に実践できると期待し、下記の項目1を設 定した。後者は現代の臨床現場ではなかなか実践が難しいが、次世代の薬剤師には特に重要 な点であり、研究マインドを持った薬剤師を養成する必要があるということで項目2を設定 した。また、こういった問題解決能力を発揮するためには、他の医療従事者や大学教員、行 政等とも密に連携することが重要だと考え、項目3を設定した。項目4は、薬剤師の人間性、 プロ意識、アイデンティティーに関わる DP である。医療従事者としての責任感を学生時代 の早い段階から持って欲しいというのは勿論だが、他の医療従事者とは違う薬剤師の職能・ 役割を常に意識して欲しいという意見も出た。また、社会福祉・地域医療に貢献するために は、薬剤師の職能を世間一般に広く示すことが重要だと考えた。この点は前日の厚生労働省 の安川氏の講演でも触れられており、薬剤師の業務・能力が広く認知されればより効果的に 社会福祉に貢献できるはずである。それに加えて、保険制度等の経済的な観点を持つのも今 後の重要なポイントであり、よりよい医療の仕組みを行政とも連携して構築できる人材が求 められるだろう。これらを将来実践するための情報発信能力・コミュニケーション能力・リ ーダーシップ能力を養成するという趣旨で項目5を設定した。最後の項目6は、次世代の人 材を育成する意識を持つべきという意見を具体化した DP である。

第2部セッション3

ⅢС班

【教育研究上の目的】:薬剤師アイテンティティーと相互尊重に基づいて多職種との連携、最新技術・情報の活用、研究等を通して社会福祉・地域医療において問題解決を支援し国民の健康に貢献する薬剤師を養成する

【ディプロマ・ポリシー】パフォーマンスとして記載

- 1. 患者における問題点に対して最新技術・情報を活用し、適切な薬学的介入をする
- 2. 臨床現場で生じる未解決の問題に対して研究を通して解決をはかる
- 3. 多職種とのネットワークを主体的に活用して適切に協働する
- 4. 医療人たる薬剤師としての自覚(倫理観・使命感・覚悟)を持って患者・生活者を真摯に支援する
- 5. 社会福祉・地域医療を維持・発展させるために薬剤師としての職能を 広く示し、リーダーシップを発揮する
- 6. 次世代教育の一部を担う

発表時点のプロダクト

セッション3の発表・討論において、項目6の次世代教育は「教育研究上の目的」から直接は読み取れないという意見をいただいた。その後のSGDにおいて、次世代教育は項目4の「薬剤師としての自覚」にも含まれるだろう、ということで項目6は削除した。また、項目1の「薬学的介入」という文言について、介入で終わってしまって良いのか、問題解決に貢献するといったニュアンスからは少し遠いのではないか、とのご意見をいただいた。この点を踏まえ、「薬学的管理を実践する」に文言を修正した。

第2部セッション3

ⅢС班

【教育研究上の目的】: 薬剤師アイテンティティーと相互尊重に基づいて多職種との連携、最新技術・情報の活用、研究等を通して社会福祉・地域医療において問題解決を支援し国民の健康に貢献する薬剤師を養成する

【ディプロマ・ポリシー】パフォーマンスとして記載

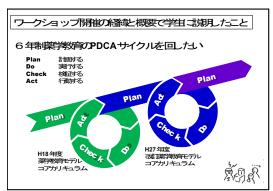
- 1. 患者における問題点に対して最新技術・情報を活用し、適切な薬学的管理を実践する
- 2. 臨床現場で生じる未解決の問題に対して研究を通して解決をはかる
- 3. 多職種とのネットワークを主体的に活用して適切に協働する
- 4. 医療人たる薬剤師としての自覚(倫理観・使命感・覚悟)を持って患者・生活者を真摯に支援する
- 5. 社会福祉・地域医療を維持・発展させるために薬剤師としての職能を 広く示し、リーダーシップを発揮する

修正後のプロダクト

第8回全国学生ワークショップで学生たちが語っていたニーズ紹介

実行委員 田村豊





ワークショップ開催の経営と概要で学生に説明したこと

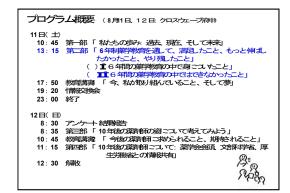
6年中で教育で対するフィード・シクか欲しい

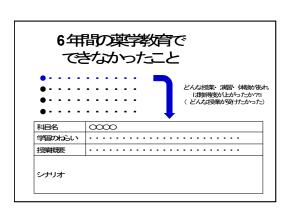
ナナシ、大学を背負う必要はありません。 個人の考えや感想で結構です。 気架と気持ちで自由こ発言して下さい。

厳しい意見付批学にありですが、できればそれを 建設な意見て変えてもらえると嬉しいです。



第四年第2月2月1日と、 6年制度学校育でまたと、 卒業後に対対ができたいこと ~将来への想、を共有しよう~





6年間の薬学教育で できなかったこと



- ●OTC→受診勧奨
- ●チーム医療→多学部との連携
- ●教育→学生同士の授業
- ●災害、救急→継続的な実践的対応方法



こんな授業 かあれば どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

科目名	チーム医療演習
学習のねらい	チーム医療における多職種の相互理解を深めるとともに、 薬剤師として求められる職能を再認識する
授業概要	同一の症例に対して各学部のグループで検討した後、多 学部混合グループを再構成して検討内容を話し合うSGD 形式

本日の症例は「60代、男性。COPDの既往歴あり、数年前から労作時に息切れ、動悸を覚えるようになった。・・・患者は〇〇〇することを望んでいる。」この症例に対して、まず薬学部内の各グループで薬学的見地から問題解決方法を検討する。そのあと多学部混合でグループを再編成して、各学部の検討内容について共有して再検討する。

6年間の薬学教育で できなかったこと



- 教育能力←受けた記憶がない漢方 実際の使い方在ことができるかは違う 包括ケア ターミナルケア 他職種連携
- 芸術 音楽 美術 art in hospital
- チーム医療 他学部との関わり 病気の知識 処方意図 一般人から聞かれて答える

- 人体解剖 イメージがつく 化学反応 実際にどこで反応が使われるのか→文章で は分かりにくい



こんな授業 があれば どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

	科目名	薬剤師教育実践実習
	学習のねらい	教育方法を学び正しい知識を提供し、現場で活躍できる 薬剤師を育成できる技術と態度を養う。
	授業概要	相手に分かりやすく提供するに当たり必要な教育論を座 学にて学ぶ。これまでの知識・経験に基づき、与えられ たテーマに沿って、4年生に対し教育実習を行う。

教員が作成した模擬処方箋などの資料を用いて、自らが指導内容を考え、 発表される。 実践する。 テーマ例: 「検査値からの患者へのアプローチ」 「模擬処方箋を用いた服薬指導」

6年間の薬学教育で できなかったこと



- 他職種への理解(合同実習、企業の見学)
- 臨床で使える知識
- インスリンの使い方、自己注射の仕方
- 教育能力
- 実践能力
- 研究能力
- ビジネススキル● コミュニケーション能力、情報のまとめ方
- 実務実習の知識の共有

こんな授業 かあれば どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

科目名	薬学を用いた実践型教育演習
学習のねらい	地域社会への貢献を通じて、次世代を担う人材を育成す る意欲と態度を習得する。同時に、人々に有益な情報を 提供するためのコミュニケーション能力を習得する。
授業概要	次世代を担う中高生へ向けた講義の内容と、伝え方についてのSGDを行い、実際に講演する。学生同士、および 聴衆からの講演の内容についての評価を取り入れる。 【実習・演習形式】

当日までに話し合って準備した「OTC 医薬品の正しい使い方」について、 パワーポイントで作成した資料を用いて講演を行う。高校生の理解度に合 わせ、専門周を使わざ伝える。高校生に実物に触れてもらい、質問も受 け付ける参加型の講演。終了後アンケートを回収し、後日評価を行う。

6年間の薬学教育で できなかったこと



- 薬局の経営的視点の獲得
- ◆ 地域の保健医療への関わり◆ 災害医療の知識を得る(被災した薬剤師から話を聞き、
- 出来ることを考える) 外国人への服薬指導
- 他学部とのワークショップ (医、歯、看、栄養等) 実践的服薬指導 (薬の味、伝えるべき副作用 (SJS等))
- 薬剤師の職務の知ってもらい方
- 薬剤師業務の国際比較
- ●各実習施設で学んだことのフィードバック(自分の実) 習先で得られなかった知識を補う)



こんな授業 があれば どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

科目名	災害時における薬剤師の役割①
学習のねらい	災害大国日本において、国民の医療を担っていることを 意識し、災害時に薬剤師として取るべき行動・知識・技 能を身につける。
授業概要	薬剤師として災害時の医薬品の取り扱いや流通に関する 知識を身につける。災害時の対処法を学ぶシミュレー ション形式

○月〇日△時〜分に○○で地震が発生。道路の寸断、停電等が発生しライフ ラインが断たれた。□時に避難所で外傷のある患者への対応が求められた。 熱傷患者 1 名に対して現在ある薬剤で対処する必要がある。お薬手帳を 持っていなかったが、消毒液圧アレルギーがあるとの情報が得られた。薬 学的にどのように対処するか検討する。



こんな授業 があれば どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

	科目名	災害時における薬剤師の役割②
	学習のねらい	災害大国日本において、国民の医療を担っていることを 意識し、災害時に薬剤師として取るべき行動・知識・技 能を身につける。
	授業概要	薬剤師として災害時の医薬品の取り扱いや流通に関する 知識を身につける。災害時の対処法を学ぶシミュレー ション形式

○○医科大学、○○看護学校との合同演習。〇月〇日△時△分に○○で地震が発生。道路の寸断、停電等が発生しライフラインが断たれた。□時に避難所で外傷のある患者への対応が求められた。熱傷患者 1 名に対して現在ある薬剤で対処する必要がある。各学生1名ずつでチームを組み、情報交換を実践しながら模擬患者に対処する。

6年間の薬学教育で できなかったこと



- ●実務実習で出来なかったことを4年生に伝える
- ●目の前で人が倒れたときに薬剤師ができることは?
- 特殊な患者(小児や妊婦など)への対応臨機応変に対応する手法臨床以外の実習(企業など)
- ●実習期間の短さ
- ●現場に行く前のプレ授業
- ●他の医療人の仕事を知らない
- ●薬剤師の働き方
- ●商品名がわからない



どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

科目名	実習意欲向上を目的とした他学年合同SGD ~6年生から学ぶ実務実習のポイント~
学習のねらい	実務実習前の4年生が、臨床での考え方や視点を主体的 に学ぶ機会とする。これにより、臨床で学ぶ必要のある 内容を明確にする。また、6年生が実習の振り返りを出来 る機会とする。
授業概要	6年生が作成したテーマに基づいて、4年生と6年生がそれぞれSGDを行い、その後お互いの意見交換を行う。学生同士での評価を取り入れた実習・濃習形式。

「病院・薬局薬剤師の業務内容」、「臨床での多繊維連携」、「特殊な患者(小児・妊婦など)への対応・考え方」などのテーマについて、4年生と6年生別々で5GDを行い、その後合同での発表と意見交換を通じて、臨床で必要な考え方や視点を共有する。

6年間の薬学教育で できなかったこと



- 多くの症例、幅広いタイプの患者さんを見たかった● 慢性期、急性期も臨床的なことをまんべんなく
- セレフメディケーションを実習前に学びたかった。地域での医療システムの差や海外の薬剤師の働き方を見
- 実習先で学べることの差や総合病院と専門病院の差が
- 4年生までに処方や検査値の見方、輸液OTC、漢方など
- を学びたかった。 ●薬の使い分け



こんな授業 があれば… どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

<u></u>	
科目名	地域・国際医療薬学
学習のねらい	国別の医療システムの違いを認識し、また、各地域の薬 学社会を取り巻く現状と課題を把握する事で、様々な薬 剤師知識と態度を養う
授業概要	実習終了後に、国際的に活躍している薬剤師や各地域の 薬剤師を講師として呼び、購演を聞いた後、学生間で SGDを行い、様々な薬剤師の働き方を学ぶ講義・演習形 式
その日の講義の	外部講師は、山間部にある病院の薬剤師A。病院は、病床

LOUID MEMORY TO THE MEMORY AND THE MEM

6年間の薬学教育で できなかったこと



- 英語
 処方解析・提案
 実習先が選べない
 OTCの勉強
 患者ごとのコミュニケーション方法
 手話
 主体的に動くこと

- 主体的に動くこと
 他職種とのコミュニケーション
 心常図の読み方
 デフレゼンの仕方
 グルーフディスカッション
 救急、災害防医療(トリアージ、AED)
 実習を実りある物にできなかった 授業と実際が違った。関ペ方がわからなかった、 実習後に何もしない・忘れる。



こんな振業 があれば どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

キッザニア (KidZania)を捩った科目名

1日1問ファッザニア 科目名

実務実習を実りある物にするため、実臨床 (病院・薬 局)を例に情報収集、処方解析及び処方提案にいたるま での考え方を身につける。 学習のねらい

医薬品情報の収集と症例への応用方法についての授業を 行い、実務実習前後に症例問題を行う演習形式。

初回に、医薬品情報の収集と症例への応用方法についての授業を行う。実 務実習前後に、1日1間(平日)ウェブ上で症例問題(重症例と軽症例、 OTCや検査値を含む)をランダムに出題。

評価方法:5段階ではなく、認定。

6年間の薬学教育で できなかったこと



- 在宅医療、フィジカルアセスメント
 OTCの選択/ドラッグストアの業務
 実習前にレジメン、同種・同効薬の選択ができるように
 実習前の手技練習を自信がつくまでやりたい
 救急医療・災害医療での薬剤師業務

- 秋岛区原・火音区原での楽川印来研 手術室での薬剤師業務 薬剤師が関わる業務・チーム医療全般の参加型実習 英語でのコミュニケーション(薬剤師として使う英語) 専門用語の勉強、カルテの見方 実習先の選択(行政、病院、企業、薬局、DS)

- リスク管理に関する講義 実習先によって内容が異なる



でんな授業かあれば…… どのような授業・演習・体験があれば 修得度が上がったと思うか?

科目名	個別化医療を目指して~あなたならどうする~
学習のねらい	実習前の事前知識として、患者個人に対して最適なレジメンや同種・同効薬の選択ができるようにする。課題解 決評価能力や自信の育成を目指す。
授業概要	患者背景を考慮して、患者データから最適な薬を選択す る演習・ディスカッション形式
	学習のねらい

実務実習前実習の一つとして行う。 授業の最初に資料を配布し、個々の患者の最適な処方提案を個人で考える 授業の最初に資料を配布し、個々の患者の最適な処方提案を個人で考える 時間を設ける。その後ディスカッションを行い発表、教員からの評価・ フィードバックを受ける。その後、患者の容勝を見て処方変更を行う。 将来的には模擬シミュレーションソフトの使用を検討する。

6年間の薬学教育で できなかったこと



- 実践的な英語 留学生と日本人を交えたSGDを通じて、お互いの日本語・英語の 理解力・コミュニケーション能力を養う
 経済的なこと
- 経済的なこと 高額療養費制度やDPC制度などを知り、経済面からも患者さんに 最適な治療薬を提案できる能力を養う

- 実践的な統計



どのような授業 演習 体験あれば 修得動いよかったと思うか?

Ce/1	
科目名	明日(役立)臨末結十
学習のおうい	人命を預かる一員として、情報の適かが乗り返離とかな められる。 本職館は、特・結構解が有法・着目・、その 原事が顕終で深る。 また、実が年用、で、適かる物定を 半期、、実践る能性を養う。
授業應	学部 回由シレケ 関係外 ・ 続い 基 体 を
ワードから検索しの妥当性 正し	マイボ 機能性表示食品」。「機能性表示食品」というキール・ ルカルタイン カリ ムザ、その本学社を関すけているデータ 特定方法であるか、経典の解析がエレッかなど)を批学的 カレーブの発表を行った後、全格・館・4多る。

学生が受けてみかった技業しかかでしたか?

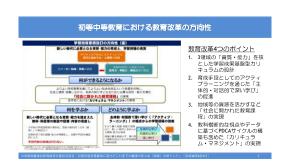
教育講演3「高大接続改革とアクティブラーニングの推進」 京都大学高等教育研究開発推進センター 山田剛史先生

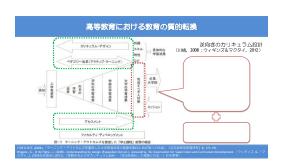
1. 高大接続の一体的改革:高等学校、大学教育、入学者選抜





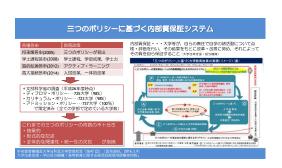








2. 三つのポリシーに基づく内部質保証と大学評価



大学界価と大学学の一次が変化。

「大学界価と大学学の一次が変化。

「大学界価と大学学の一次のでは、

「大学学の一次のでは、

「大学学の一次のでは、

「大学学の一次のでは、

「大学の主義は、中のからの情(大型を取ります。

「大学の主義は、中のからの情(大型を取ります。

「大学の主義は、中のからの情(大型を取ります。

「大学の主義は、中のからの情(大型を取りませた。

「大学の主義は、中のからの情(大型を取りませた。

「大学の主義は、中のからの情(大型を取りませた。

「大学の主義は、中のからの情(大型を取りませた。

「大学の主義は、中のからの情(大型を取りませた。

「大学の主義は、大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大型を対して、

「大学の主義は、大型を対して、

「大型の主義は、大

3. アクティブラーニングの展開と学生の学びの実態

21世紀社会を生き抜くための能力を身につけられる空間か?



学びへの姿勢は引き継がれる。このまま社会に・・・



学びの姿勢は高等教育以前に作られる





「教授(何を教えるか)」から「学習(どう学ぶか)」への転換



「教授(何を教えるか)」から「学習(どう学ぶか)」への転換



4. アクティブラーニングを正しく理解し、設計・実践する

アクティブラーニングの特徴

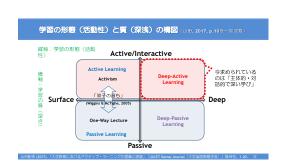
アクティブラーニングの定義(場上 2014)

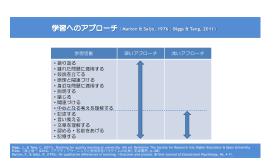
一万向的なお照伝達型機構を膨くという(多動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと、認動的な学習には、書く・誘す・発表するなどの活動への胸与と、そこで生しる終却プロセスの外化を行う。

⇒「活動・経験」と「振り返り(内化・外化)」が含まれる。

アクティブラーニングの一粒的情報(電下駅、2015)

(a)学生は、持葉を聴く比上の味力の多に生産が指かれていること
(b)情報の返泳の学生のスチルの多成(生産をが描かれていること
(c)学生は高文の思考(分析、総合、評価)に関わっていること
(d)学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること
(e)学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること





「能力」に対応したアクティブラーニングの技法 (Nilson, 2010: ##, 2015)

5. 最後に

- 少子高齢化や第4次産業革命などにより、大学教育に求められる能力が深化 (暗記→活用・創造)、拡張(識別+非認知)してきた。

 教授・学部バラダイムの転換と連動して、アウトカム基盤型カリキュラムが 推奨される(医療条学部・大学全体・高校2

 大学評価は事前規制から事後チェックへとシフトし、三つのボリシーに基づ く内部賃保証の構築が重視される。

 入試改革・学習指導要領決定に伴い、高校でのALは急速に増加する。大学は それを前速として初年次教育や良業のAL化を検討。

 ALは、アウティピティを入れれば、「CTを使えばのKではないし、単なる教授 法ではない。学生の学びが主体性を帯びているか、学びの質は深さを伴って いるかといった点から授業を設計・実践・評価しなければならない。